

平成26年度  
保健所年報

(平成27年度版)



伊賀庁舎のマスコットキャラクター 「もーにんちゃん」(左)と「おーちゃん」(右)

## 三重県伊賀保健所

〒518-8533 伊賀市四十九町 2802 番地 三重県伊賀庁舎内

(保健衛生室)

総務企画課

TEL 0595-24-8070

健康増進課

TEL 0595-24-8045

地域保健課

TEL 0595-24-8076

衛生指導課

TEL 0595-24-8080

FAX 0595-24-8085

〔ホームページ URL〕 <http://www.pref.mie.lg.jp/GHOKEN/HP/>

〔Eメールアドレス〕 [ghoken@pref.mie.jp](mailto:ghoken@pref.mie.jp)

## 目次

1 管内概況	
(1)伊賀保健所の概要	…… 1
(2)相談等日程	…… 2
(3)管内の状況	…… 2
(4)人口動態統計	…… 6
2 「みえ県民カビジョン」による事業実績	
<b>I「守る」～命と暮らしの安全・安心を実感できるために～</b>	
111 防災・減災対策の推進	
11105(災害医療体制の整備)	
1 災害拠点病院	…… 10
113 食の安全・安心の確保	
11301(食品の安全・安心の確保)	
1 食品衛生	…… 11
114 感染症の予防と体制の整備	
11401(感染症予防普及啓発の推進)	
1 感染症の予防事業	…… 13
11403(感染症対策のための相談・検査の推進)	
1 エイズ対策事業	…… 14
2 結核対策事業	…… 15
121 医師確保と医療体制の整備	
12101(医療分野の人材確保)	
1 管内保健師設置状況	…… 20
2 保健師等研修状況	…… 20
3 看護学生等保健所実習指導	…… 20
12102(救急・へき地等の医療の確保)	
1 地域救急医療対策事業	…… 21
2 救急告示病院	…… 21
12103(医療の質の向上)	
1 医務	…… 22
123 こころと身体健康対策の推進	
12301(健康づくり活動の推進)	
1 健康づくり総合推進事業	…… 23
2 健康食育推進事業	…… 24
3 栄養施行事務事業	…… 25
12302(こころの健康づくりの推進)	
1 こころの健康づくり事業	…… 27
2 自殺予防対策	…… 27
12303(生活習慣病・難病対策の推進)	
1 原子爆弾被爆者対策事業	…… 30
2 難病対策事業	…… 31
3 難病在宅ケア事業	…… 35

## 目次

4	臓器移植啓発事業	……	38
5	ハンセン病啓発事業	……	38
6	骨髄バンク	……	38
134	薬物乱用防止等と医薬品の安全確保		
13401	(薬物乱用防止対策の推進)		
1	薬物乱用防止対策	……	39
13402	(医薬品等の安全な製造・供給の確保)		
1	薬事	……	41
2	講習会	……	41
3	献血推進	……	44
13403	(生活衛生営業の衛生水準の確保)		
1	生活衛生	……	45
13404	(人と動物との共生環境づくり)		
1	狂犬病予防法等施行事務	……	46
2	動物愛護	……	46
141	介護基盤整備などの高齢者福祉の充実		
14101	(介護保険事業の円滑な運営とサービスの質の向上)		
1	介護保険制度	……	47
14102	(介護基盤の整備促進)		
1	老人保健福祉施設等の設置状況	……	48
142	障がい者の自立と共生		
14202	(障がい者福祉サービスの充実)		
1	障がい者福祉	……	49
14204	(精神障がい者の保健医療の確保)		
1	精神保健福祉事業	……	51
143	支え合いの福祉社会づくり		
14301	(地域福祉活動と権利擁護の推進)		
1	民生委員・児童委員	……	56
14304	(ユニバーサルデザインのネットワークづくりの推進)		
1	おもいやり駐車場利用証制度	……	56
<b>II「創る」～人と地域の夢や希望を実感できるために～</b>			
232	子育て支援策の推進		
23202	(母子保健対策の推進)		
1	母子保健事業	……	57
2	母体保護事業	……	59

\* 事業実績は、次ページの「みえ県民カビジョン」の政策・事業体系に沿ってまとめました。

# 「みえ県民カビジョン」の政策・事業体系

「みえ県民カビジョン」は、長期的な視点から、三重のあるべき姿を展望し、県政運営の基本姿勢や政策展開の方向性を示す、平成24(2012)年度からのおおむね10年先を見据えた県の戦略計画です。社会経済情勢の変化に対応し、県民の皆さんと力を合わせて新しい三重づくりをめざそうとするものです。

基本理念の実現に向けて、〈政策展開の基本方向〉(三つの柱)を定めるとともに、その下に16の〈政策〉、56の〈施策〉を位置づけて、県政を推進していきます。

## I 「守る」 ～命と暮らしの安全・安心を実感できるために～

政策	施策	基本事業	ページ
1	危機管理		
1	防災・減災対策の推進		
		11105(災害医療体制の整備)	..... 10
3	食の安全・安心の確保		
		11301(食品の安全・安心の確保)	..... 11
4	感染症の予防と体制の整備		
		11401(感染症予防普及啓発の推進)	..... 13
		11403(感染症対策のための相談・検査の推進)	..... 14
2	命を守る		
1	医師確保と医療体制の整備		
		12101(医療分野の人材確保)	..... 20
		12102(救急・へき地等の医療の確保)	..... 21
		12103(医療の質の向上)	..... 22
3	こころと身体の健康対策の推進		
		12301(健康づくり活動の推進)	..... 23
		12302(こころの健康づくりの推進)	..... 27
		12303(生活習慣病・難病対策の推進)	..... 30
3	暮らしを守る		
4	薬物乱用防止等と医薬品の安全確保		
		13401(薬物乱用防止対策の推進)	..... 39
		13402(医薬品等の安全な製造・供給の確保)	..... 41
		13403(生活衛生営業の衛生水準の確保)	..... 45
		13404(人と動物との共生環境づくり)	..... 46
4	共生の福祉社会		
1	介護基盤整備などの高齢者福祉の充実		
		14101(介護保険事業の円滑な運営とサービスの質の向上)	..... 47
		14102(介護基盤の整備促進)	..... 48
2	障がい者の自立と共生		
		14202(障がい者福祉サービスの充実)	..... 49
		14204(精神障がい者の保健医療の確保)	..... 51
3	支え合いの福祉社会づくり		
		14301(地域福祉活動と権利擁護の推進)	..... 56
		14304(ユニバーサルデザインのネットワークづくりの推進)	..... 56

## Ⅱ「創る」～人と地域の夢や希望を実感できるために～

政 策      施 策      基本事業

2 子どもの育ちと子育て

3 子育て支援策の推進

23202(母子保健対策の推進)

…… 57

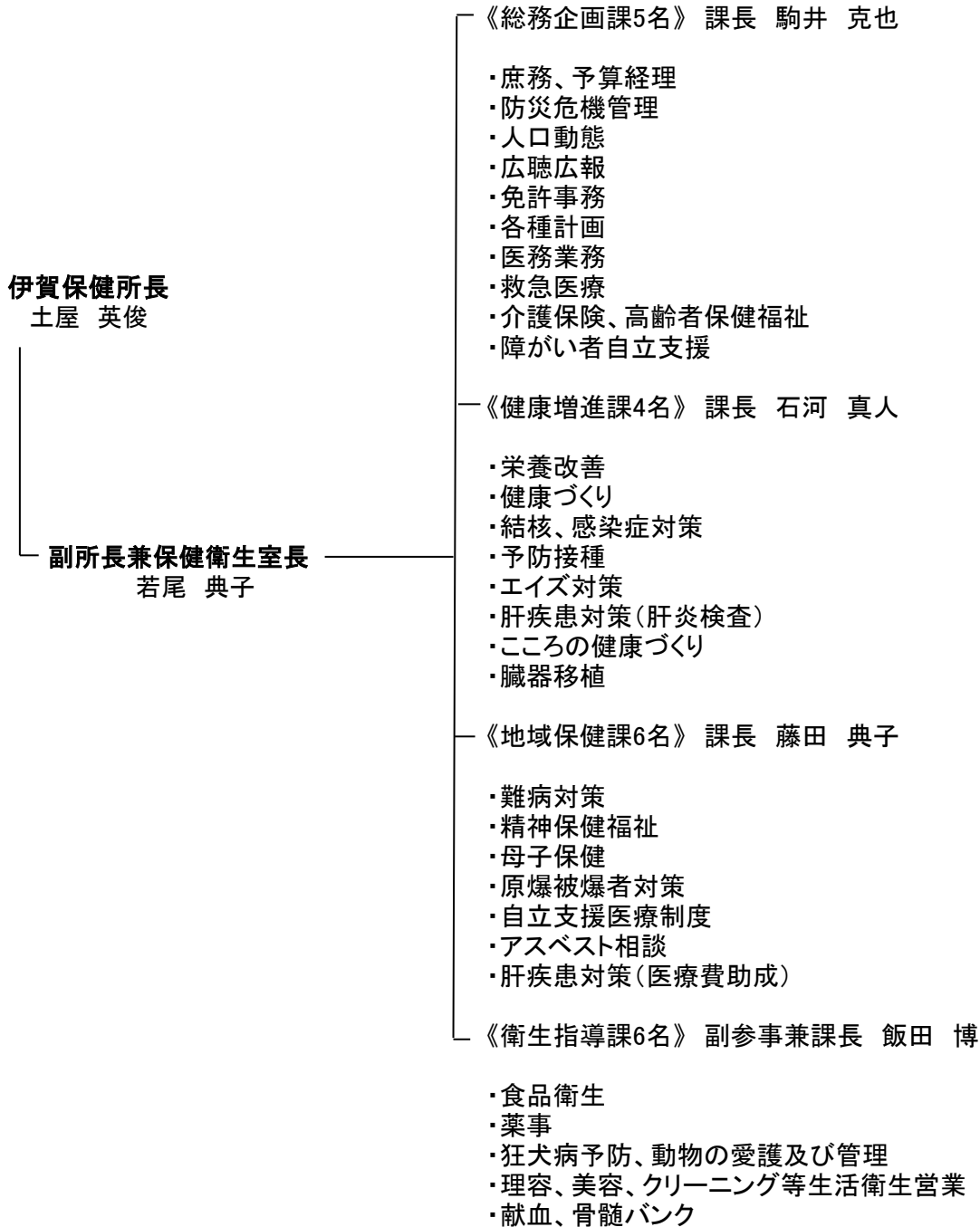
## Ⅲ「拓く」～強みを生かした経済の躍動を実感できるために～

\* 伊賀保健所に関する事業のみ抜粋しました。

# 1 管内概況

## (1) 伊賀保健所の概要(平成27年度体制)

### 伊賀保健所組織及び所掌事務



(2) 相談等日程

	午前	午後	場所
月曜日			
火曜日	エイズ・肝炎の相談・検査 (要予約) 9:00～11:00		県 伊賀庁舎
水曜日		精神保健相談(要予約) (第4週) 14:00～16:00	県 伊賀庁舎
木曜日	骨髄バンク(ドナー登録) (要予約) (第2週)9:00～12:00		県 伊賀庁舎
	結核検診 (第2・4週)12:30～13:30		県 伊賀庁舎
金曜日			

(3) 管内の状況

ア 各市の状況

種別 市	平成22年国勢調査		平成26年10月1日現在				世帯数の 伸び率	人口の 伸び率
	世帯数	総人口	面積 (km <sup>2</sup> )	世帯数	総人口	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )		
計	64,396	177,491	687.93	65,279	171,538	249.4	101.4%	96.6%
伊賀市	34,915	97,207	558.17	34,604	92,905	166.4	99.1%	95.6%
名張市	29,481	80,284	129.76	30,675	78,633	606.0	104.1%	97.9%

\*資料:三重県戦略企画部統計課 平成26年10月1日推計人口

## イ 管内の概況

平成 16 年 11 月 1 日に上野市、伊賀町、島ヶ原村、阿山町、大山田村、青山町の 6 市町村が合併し「伊賀市」が誕生したことにより、管内は名張市との 2 市体制となっています。

### (ア) 位置・面積・気候

伊賀地域は、三重県の西北部、関西圏と中部圏のほぼ中央に位置するとともに、北は滋賀県、西は京都府、奈良県に接しており、古くから経済・文化ともに関西圏の影響を強く受けている地域です。

また、当地域は内陸盆地で、中央に上野盆地、南に名張盆地があり、東の鈴鹿、布引山系、西の笠置山系、南の室生火山群、北の信楽高原と標高 500～800m の山々に囲まれ、総面積は 687.93k m<sup>2</sup>で、県土の約 12%にあたります。

山地が約 62%(421.37k m<sup>2</sup>)を占めますが、盆地内は標高 130～160m で、柘植川、服部川、木津川、名張川が流れ、伊賀市街、名張市街などを潤し、その全てが木津川に集まり、さらに淀川となって大阪湾に注いでいます。

伊賀地方の気候は、典型的な内陸盆地気候です。伊賀盆地の中央にある伊賀市の年平均気温が 14℃前後で、県内の観測所ではいちばん低くなっています。山地を除くと1月の平均気温は3℃で、県内では最も寒さの厳しい地域です。逆に夏の暑さは場所によっては40℃を超えた記録もあるように、夏と冬や朝と夕の温度差が大きい内陸型の気候の特徴を示しています。また、年間降水量は 1,300mm～1,500mm で県内で最も雨の少ない地域です。また年間を通じて盆地特有の放射霧が多く発生し、特に10～11月に発現率が高くなっています。

### (イ) 人口

伊賀地域の人口は、平成 26 年 10 月 1 日現在 171,538 人であり、県の総人口に占める割合は約 1 割です。

昭和 40 年頃までは、高度成長期における県外流出が続き、各市町村とも減少していましたが、その後徐々に増加し、昭和 55 年以降の管内人口の増加率は県全体の増加率を大幅に上回る状況が続き、特に名張市と旧青山町においては、昭和 55 年以降の人口の増加が顕著です。これは、伊賀南部の近鉄大阪線沿線の住宅開発等に起因するものです。しかしながら、伊賀地域の人口は平成 12 年をピークに僅かずつではありますが減少傾向に転じています。

また、管内の 65 歳以上の老年人口は、平成 26 年 10 月現在 49,677 人で、総人口に占める割合は、29.0%に達し、全県の老年人口の比率 27.0%を上回っています。

### (ウ) 交通

道路網については、東西幹線として名阪国道(亀山市～天理市)、国道 25 号(四日市市～大阪市)、国道 163 号(大阪市～津市)、国道 165 号(大阪市～津市)、南北幹線として、国道 368 号(伊賀市～多気町)、国道 422 号(大津市～紀北町)の主要幹線があり、また伊賀の各地区を環状に結ぶ広域農道の伊賀コリドールロードが整備されました。

交通機関は、鉄道として東西に、北部のJR関西線、南部の近鉄大阪線が、南北にこの両者を結ぶ伊賀鉄道が通じています。また北東部にはJR草津線が通っています。

このうち、近鉄大阪線については、関西圏の通勤の動脈として利便性が高くなっています。またJR関西線は、名古屋市と大阪市を最短ルートで結ぶ主要幹線鉄道であるものの単線・非電化であることから、輸送力の増大と利便性の向上が強く望まれています。



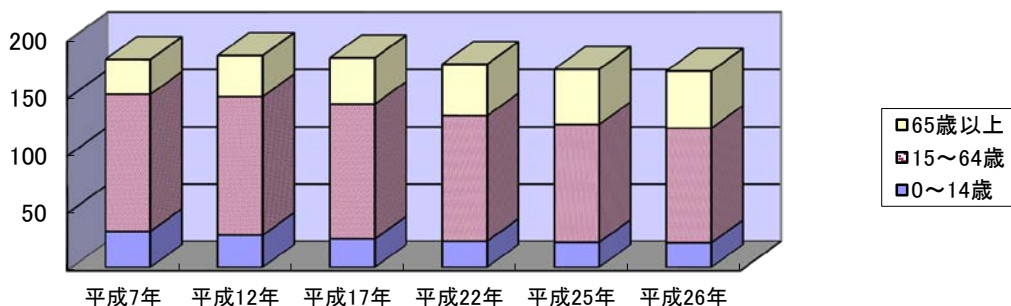


(エ) 管内人口の推移(各年10月1日現在)

	平成7年 1995年	平成12年 2000年	平成17年 2005年	平成22年 2010年	平成25年 2013年	平成26年 2014年
計	181,348	184,818	182,779	177,491	173,094	171,538
伊賀市 (旧上野市)	60,986	61,493	100,623	97,207	93,849	92,905
名張市	79,913	83,291	82,156	80,284	79,245	78,633
伊賀市 (旧伊賀町)	11,154	11,019				
伊賀市 (旧島ヶ原村)	2,934	2,752				
伊賀市 (旧阿山町)	8,500	8,427				
伊賀市 (旧大山田村)	6,186	5,987				
伊賀市 (旧青山町)	11,675	11,849				

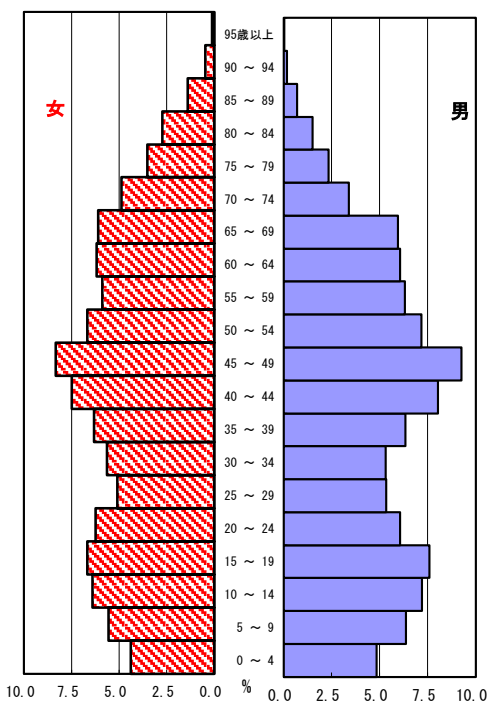
\*資料:平成7年～平成22年は国勢調査、平成25～26年は三重県戦略企画部統計課推計人口

3区分別割合の推移

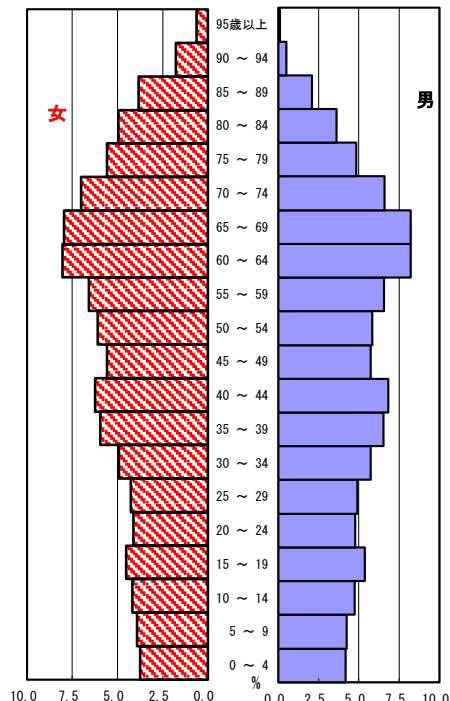


【管内の人口ピラミッド】

平成7年



平成26年



(オ) 管内市の人口構成(概数)

平成26年10月1日現在

市名	総人口	年齢区分別人口			少年人口(18歳未満人口)				計
		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人 口(15～64 歳)	老年人口 (65歳以上)	0～5歳	6～11歳	12～14歳	15～17歳	
管内	171,538	21,431	100,032	49,677	8,200	8,577	4,654	5,077	26,508
伊賀市	92,905	11,208	53,083	28,450	4,241	4,464	2,503	2,797	14,005
名張市	78,633	10,223	46,949	21,227	3,959	4,113	2,151	2,280	12,503
三重県	1,820,491	240,263	1,076,257	491,799	90,857	96,673	52,733	54,651	294,914

\* 資料: 三重県戦略企画部統計課推計人口

\* 年齢不詳者が存在するため、必ずしも合計数と一致しない。

平成26年10月1日現在

	年齢区分別割合			年齢構成指数			
	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人 口(15～ 64歳)	老年人口 (65歳以上)	年少人口 指数	老年人口 指数	従属人口 指数	老年化指 数
管内	12.5	58.3	29.0	21.4	49.7	71.1	231.8
伊賀市	12.1	57.1	30.6	21.1	53.6	74.7	253.8
名張市	13.0	59.7	27.0	21.8	45.2	67.0	207.6
三重県	13.2	59.1	27.0	22.3	45.7	68.0	204.7

○年齢構成指数の求め方

$$\text{年少人口指数} = \frac{\text{年少人口(0～14歳)}}{\text{生産年齢人口(15～64歳)}} \times 100$$

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{老年人口(65歳以上)}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

○特徴

管内人口の年齢構成は高齢化が進んでおり、老年人口割合は29.0%となっている。伊賀市では30.6%と三重県の値27.0%を上回っているが、名張市は27.0%で県全体と同じとなっている。

管内の年少人口指数については21.4と三重県の値22.3を下回っているが、老年人口指数49.7、老年化指数231.8と、いずれも三重県の値(老年人口指数45.7、老年化指数204.7)を上回っている。

(4)人口動態統計

ア 人口動態総覧

平成25年の人口動態(確定数)の概況は次のとおりである。

表1 人口動態総覧(実数、率) 各市別

平成25年1月1日～12月31日

	各市 (県・全 国)	人口	出生			低体重児(再掲)*1			死亡			乳児死亡(再掲)*2		
			総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
実 数	全国	127,297,686	1,029,816	527,657	502,159	98,624	44,697	53,927	1,268,436	658,684	609,752	2,185	1,193	992
	三重県	1,829,063	14,514	7,451	7,063	1,291	585	706	19,690	10,133	9,557	44	31	13
	管内	173,094	1,310	677	633	108	53	55	1,961	1,016	945	5	4	1
	伊賀市	93,849	641	341	300	47	22	25	1,218	625	593	3	3	0
	名張市	79,245	669	336	333	61	31	30	743	391	352	2	1	1
率	全国		8.2	8.5	7.7	95.8	84.7	107.4	10.1	10.6	9.3	2.1	2.3	2.0
	三重県		8.1	8.4	7.5	88.9	78.5	100.0	10.9	11.4	10.2	3.0	4.2	1.8
	管内		7.6	8.1	7.1	82.4	78.3	86.9	11.3	12.2	10.5	3.8	5.9	1.6
	伊賀市		6.8	7.5	6.2	73.3	64.5	83.3	13.0	13.8	12.3	4.7	8.8	0.0
	名張市		8.4	8.8	8.1	91.2	92.3	90.1	9.4	10.3	8.5	3.0	3.0	3.0
		率の算出方法	人口千対	男子人 口千対	女子人 口千対	出生千 対	男子出 生千対	女子出 生千対	人口千対	男子人 口千対	女子人 口千対	出生 千対	男子 出生 千対	女子 出生 千対

\*資料:三重県健康福祉部健康福祉総務課、人口は三重県:三重県戦略企画部統計課(平成25年10月1日現在推計人口)、全国:総務省統計局(平成25年10月1日現在推計人口)

\*1低体重児は出生体重2,500g未満 \*2乳児死亡は生後1年未満の死亡。

平成25年1月1日～12月31日

	各市(県・全国)	新生児死亡(再掲)	死産			周産期死亡			婚姻	離婚	自然増加	合計特殊出生率
			総数	自然	人工	総数	妊娠満22週以後の死産	早期新生児死亡				
実数	全国	1,026	24,102	10,938	13,164	3,862	3,110	752	660,613	231,383	△ 238,620	
	三重県	22	304	143	161	59	41	18	8,844	3,281	△ 5,176	
	管内	2	29	11	18	2	1	1	814	331	△ 651	
	伊賀市	-	17	5	12	1	1	-	438	178	△ 577	
	名張市	2	12	6	6	1	-	1	376	153	△ 74	
率	全国	1.0	22.9	10.4	12.5	3.7	3	0.7	5.3	1.8	△ 1.9	1.43
	三重県	1.5	20.5	9.7	10.9	4.1	2.8	1.2	4.9	1.8	△ 2.9	1.49
	管内	1.5	21.7	8.2	13.4	1.5	0.8	0.8	4.7	1.9	△ 3.8	1.47
	伊賀市	-	25.8	7.6	18.2	1.6	1.6	-	4.7	1.9	△ 6.1	1.39
	名張市	3.0	17.6	8.8	8.8	1.5	-	1.5	4.7	1.9	△ 0.9	1.56
	率の算出方法	出生千対	(出産)千対			出生千対			人口千対			

\*資料: 三重県健康福祉部健康福祉総務課、厚生労働省大臣官房統計情報部

- ・△は減を示す。
- ・新生児死亡は生後4週未満の死亡。
- ・早期新生児死亡は生後1週未満の死亡。
- ・死産は妊娠12週以後の死児の出産。
- ・自然増加は出生数－死亡数。

$$\text{合計特殊出生率} = \frac{\sum_{\text{年齢15}}^{49} \text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女子人口}}$$

(ア) 出生

管内の出生数は前年より49人減少し、出生率は7.6であった。市別にみると、名張市は県の値8.1を0.3ポイント上回っているが、伊賀市は1.3ポイント下回っている。

(イ) 死亡

管内の死亡数は1,961人で前年より8人減少し、死亡率は11.3で前年より0.1ポイント上回っている。市別にみると、名張市は県の値を1.5ポイント下回っているが、伊賀市は県の値を2.1ポイント上回っている。

(ウ) 乳児死亡

乳児の生存は母体の健康状態や養育条件等の影響を強く受けることから、地域の衛生状態、生活水準を反映する指標として重視されている。管内の乳児死亡数は前年より3人増加し、新生児死亡数も前年より2人増加した。

(エ) 死産

管内の死産数は前年より2人減の29人であった。人工死産率は13.4で三重県の値を2.5ポイント上回っている。自然死産率は8.2で県の値を1.5ポイント下回っている。

(オ) 周産期死亡

母体の健康状態に強く影響される指標である。周産期死亡数は前年より1人減少し、周産期死亡率は1.5で昨年の値を0.7ポイント下回っている。

(カ) 婚姻と離婚

婚姻件数は814件で前年より52件減少している。婚姻率は4.7で県の値を0.2ポイント下回っている。離婚件数は331件で前年より23件減少した。離婚率は1.9で県の値を0.1ポイント上回っている。

(キ) 自然増加

管内の自然増加率は-3.8で県の値-2.9を0.9ポイント下回っている。

(ク) 合計特殊出生率

管内の合計特殊出生率は1.47で昨年より0.01ポイント上回っている。伊賀市は1.39で昨年の0.05ポイント下回り、名張市は1.56で昨年の0.08ポイント上回っている。

イ 死亡の動向

死因別の死亡状況を次に示した。

表2 各市別主要死因別死亡数・死亡率(人口10万人対)

平成25年1月1日～12月31日

		総数	結核	悪性新生物	糖尿病	高血圧性疾患	心疾患	脳血管疾患	大動脈瘤	肺炎	慢性閉塞性肺疾患	喘息	肝疾患	腎不全	老衰	不慮の事故	自殺
三重県	死亡率	1,076.5	1.5	285.9	12.4	6.3	160.5	101.5	15.4	99.7	14.5	1.2	10.7	23.6	85.0	37.6	19.0
	死亡者数	19,690	27	5,229	227	116	2,936	1,857	281	1,823	266	22	195	431	1,555	687	348
管内	死亡率	1,132.9	2.3	317.7	8.7	5.8	158.9	92.4	12.7	102.3	17.3	0.6	8.1	24.8	123.1	35.8	14.4
	死亡者数	1,961	4	550	15	10	275	160	22	177	30	1	14	43	213	62	25
伊賀市	死亡率	1,297.8	1.1	351.6	8.5	10.7	196.1	111.9	12.8	124.7	22.4	1.1	9.6	29.8	135.3	45.8	16.0
	死亡者数	1,218	1	330	8	10	184	105	12	117	21	1	9	28	127	43	15
名張市	死亡率	937.6	3.8	277.6	8.8	-	114.8	69.4	12.6	75.7	11.4	-	6.3	18.9	108.5	24.0	12.6
	死亡者数	743	3	220	7	-	91	55	10	60	9	-	5	15	86	19	10

\*資料:三重県健康福祉部健康福祉総務課

10

表3 各市別主要死因別年齢調整死亡率(人口10万人対)

平成25年1月1日～12月31日

	総数	結核	悪性新生物	糖尿病	高血圧性疾患	心疾患	脳血管疾患	大動脈瘤	肺炎	慢性閉塞性肺疾患	喘息	肝疾患	腎不全	老衰	不慮の事故	自殺
三重県	374.84	0.39	119.14	4.15	1.49	50.84	30.57	5.32	26.59	4.24	0.42	5.51	6.67	16.08	17.09	17.13
管内	367.58	0.63	124.09	2.65	1.16	45.93	27.60	4.19	25.51	3.75	0.09	4.24	6.84	21.09	14.52	14.06
伊賀市	378.58	0.25	126.89	2.33	1.89	49.18	31.46	4.89	28.01	3.75	0.13	4.68	6.54	19.01	17.32	14.69
名張市	354.94	1.25	120.91	3.24	-	40.63	22.89	3.90	22.54	3.41	-	3.85	6.82	24.79	11.10	13.15

\*資料:三重県健康福祉部健康福祉総務課

$$\text{年齢調整死亡率} = \frac{\text{〔観察集団の年齢 } \chi \text{ 歳(年齢階級)の死亡率} \times \text{基準人口集団のその年齢 } \chi \text{ 歳(年齢階級)の人口〕の各年齢(年齢階級)についての総和}}{\text{基準人口集団の総数}} \times 100$$

基準人口:昭和60年モデル人口の使用

表4 市別・性別・悪性新生物部位別死亡者数

平成25年1月1日～12月31日(単位:人)

各市名	性別	総数	食道	胃	結腸	直腸S 状結 腸移 行部 及び 直腸	肝及 び肝 内胆 管	胆のう 及び その 他の 胆道	膵	気管、 気管支 及び肺	乳房	子宮	白血病	その他
三重県	計	5,229	133	726	450	249	365	232	462	1,195	170	71	106	1,070
	男	3,201	113	490	228	155	232	118	243	884	-	-	53	685
	女	2,028	20	236	222	94	133	114	219	311	170	71	53	385
管内	計	550	15	83	32	25	51	22	34	145	13	11	9	110
	男	346	13	60	19	16	36	9	18	103	-	-	4	68
	女	204	2	23	13	9	15	13	16	42	13	11	5	42
伊賀市	計	330	12	47	16	16	35	16	18	85	8	5	6	66
	男	209	10	33	8	11	24	7	9	62	-	-	2	43
	女	121	2	14	8	5	11	9	9	23	8	5	4	23
名張市	計	220	3	36	16	9	16	6	16	60	5	6	3	44
	男	137	3	27	11	5	12	2	9	41	-	-	2	25
	女	83	-	9	5	4	4	4	7	19	5	6	1	19

\*資料:三重県健康福祉部健康福祉総務課

## ○ 特徴

管内の死因順位では、第一位悪性新生物550人(総数に占める割合28.0%)、第二位心疾患275人(同様に14.0%)、第三位老衰213人(同様に10.9%)である。これら3大死因の総数に占める割合は52.9%となっている。

年齢構成を補正した年齢調整死亡率は、管内367.58であり、主な死因別では結核、悪性新生物、腎不全、老衰がそれぞれ県の値を上回っている。

死因のうち、悪性新生物部位別死亡状況を表4に示した。

「胃」「膵」「気管・気管支及び肺」で47.6%を占めている。

# I 「守る」～命と暮らしの安全・安心を実感できるために～

## 111 防災・減災対策の推進

### 11105 災害医療体制の整備

(主担当:保健衛生室 総務企画課)

#### 主な取組内容

- 1 災害発生時には、災害医療コーディネーターと連携を図り、「三重県災害医療対応マニュアル」に基づいて迅速に対応します。
- 2 災害発生時に、医療機関及び医薬品等関係機関の協力を得て、医療救護活動に必要な医薬品・衛生材料の調達・分配を行います。
- 3 災害拠点病院との連携をはかります。

## 1 災害拠点病院

大規模な災害時に備えるため、災害拠点病院を指定した。

### (1) 伊賀地域災害拠点病院

平成 27 年 4 月 1 日現在

名称	郵便番号	住所	電話番号	ファックス番号
伊賀市立上野総合市民病院	518-0823	伊賀市四十九町 831	24-1111	24-2268
名張市立病院	518-0481	名張市百合が丘西1 番町 178 番地	61-1100	64-7999

## 113 食の安全・安心の確保

### 11301 食の安全・安心の確保

(主担当:保健衛生室 衛生指導課)

#### 主な取組内容

- 1 食品の製造・加工から消費にいたる一貫した監視指導などを行うことにより、食の安全・安心の確保の構築をめざします。
- 2 食の安全・安心を確保するため、残留農薬や食品添加物、重篤な健康被害を引き起こすアレルギー物質、食中毒菌等の検査を実施します。

#### 1 食品衛生

食品による危害の発生を防止するため、食品営業許可施設等に対する監視指導を実施するとともに、流通食品等を収去検査した。

また、食品等事業者に対し、食品衛生講習を行うとともに、食品衛生指導員と連携し、食品衛生思想の普及啓発の活動を行った。

##### (1) 食品営業許可施設等の監視指導結果

平成 26 年度三重県食品監視指導計画に基づき、食中毒発生時のリスク、取り扱う食品の流通の広域性、製造量などを評価し 3 ランクに分類し、ランクごとに監視頻度を定め、食品衛生法に基づく施設基準や食品の衛生的な取扱いを中心とした監視を実施した。

区分			監視実施件数	監視率(%)
Aランク施設	対象施設数	130	302	116.2
(年 2 回以上監視)	監視件数	260		
Bランク施設	対象施設数	149	177	118.8
(年 1 回以上監視)	監視件数	149		
Cランク施設	対象施設数	3403	959	140.8
(5 年に 1 回監視)	監視件数	681		
計	対象施設数	3682	1438	131.9
	監視件数	1090		

##### (2) 食品衛生に関する講習会実施結果

食品事業者等を対象とした食品衛生に関する講習会を 43 回開催し、1,312 名が受講した。

##### (3) 食品衛生月間における街頭啓発の実施

厚生労働省は、毎年 8 月を食品衛生月間と定め、全国的に食品衛生思想の普及・啓発を推進しているが、この食品衛生月間時に食品衛生指導員と連携し、食品衛生思想の普及啓発の活動を行った。

\* 平成 26 年 8 月 1 日 イオン名張店

\* 平成 26 年 8 月 4 日 Aコープ青山

\* 平成 26 年 8 月 6 日 イオン伊賀上野店



内容 食中毒予防リーフレット等啓発資材の配布  
手洗い実験

(4) 調理師・製菓衛生師試験受験状況

平成 26 年度

区分	申込者数(人)	受験者数(人)	合格者数 (人)	合格率(%)
調理師 試験	43	37	21	56.8
製菓衛生師 試験	66	54	33	61.1

## 114 感染症の予防と体制の整備

### 11401 感染症予防普及啓発の推進

(主担当：保健衛生室 健康増進課)

#### 主な取組内容

- 1 法に規定されている感染症の患者が発生した場合、家族等の接触者に対して調査や検査を実施し、まん延を防止します。

#### 1 感染症の予防事業

感染症の予防対策と防疫対策の推進を図り、患者発生防止に努めた。

##### (1) 感染症発生状況(結核を除く)

平成 26 年度

分類	疾患名	届出件数
一類感染症	—	0
二類感染症	—	0
三類感染症	細菌性赤痢	1
	腸管出血性大腸菌感染症	6
四類感染症	デング熱	1
	レジオネラ症	1
五類感染症	アメーバ赤痢	3
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2
	急性脳炎	2
	梅毒	3
	風しん	1

##### (2) 検疫通報 通報件数 1 件

##### (3) 行政検査実施状況

平成 26 年度

疾患名	件数
細菌性赤痢	7
腸管出血性大腸菌感染症	27
麻しん	2

##### (4) 感染症病原体検査 検査件数 5 件

##### (5) 感染予防教育実施状況

実施日	内容	参加者
平成 26 年 7 月 28 日	感染症の発生状況と予防	大野木ゆうゆうクラブ会員 20 名
平成 26 年 10 月 2 日	社会福祉施設における感染症対策	社会福祉法人 名張育成会職員 28 名
平成 26 年 10 月 23 日	社会福祉施設における感染症対策	社会福祉法人 洗心福祉会職員 52 名

## 11403 感染症対策のための相談・検査の推進

(主担当：保健衛生室 健康増進課)

### 主な取組内容

- 1 エイズをはじめとする性感染症のまん延を防止するため、知識の普及啓発を図るとともに、検査、医療等の相談など総合的に事業を展開します。
- 2 結核患者の早期発見・早期治療のため、接触者健康診断を実施し、まん延を防止します。

### 1 エイズ対策事業

エイズに対する正しい知識の普及啓発を図るとともに、相談及び検査を実施した。

#### (1) 相談、検査状況

平成 26 年度

	男	女	計
エイズ相談件数	4	3	7
エイズ検査件数	33	16	49

#### (2) 普及啓発状況

エイズを含めた性感染症の予防と、患者及び感染者に対する差別や偏見の解消を図る事を目的に普及啓発を実施した。

#### キャンペーン等の実施

実施日	内 容	対象者
平成 26 年 10 月 7 日	コープみえ活動交流会にてエイズ啓発を実施	来場者 100 名
平成 26 年 10 月 26 日	名張市体育・健康フェスタにてエイズ啓発コーナーの設置	来場者 180 名
平成 26 年 11 月 7 日～11 月 12 日	薬物乱用防止事業にてエイズ啓発コーナーの設置	住民 150 名
平成 26 年 12 月 1 日	世界エイズデー街頭キャンペーンの実施	住民 900 名
平成 26 年 12 月 1 日～12 月 5 日	伊賀庁舎にて世界エイズデー啓発コーナーの設置	来庁者 200 名

#### (3) 特定感染症検査

平成 26 年度

	男	女	計
梅毒検査件数	19	14	33
B型肝炎検査件数	31	23	54
C型肝炎検査件数	30	22	52

レッドリボンは、  
H I V感染者・エ  
イズ患者への理解  
と支援の意思を表  
すシンボルです。



#### (4) 肝炎ウイルス検査医療機関委託事業

委託件数 88 件

## 2 結核対策事業

平成19年4月からは感染症法2類として結核が位置づけられた。対策としては引き続き、結核が個人的にも社会的にも健康被害を及ぼすことのないよう、結核患者に対する適正な医療を普及し、確実な治療への支援に努めるとともに、地域の実情に応じた結核対策を講じ、結核予防の推進を図った。

### (1) 管内結核登録患者の状況

結核患者の登録は結核対策の重要な施策の一つで、活動性分類、受療状況を調査し、患者の管理と生活指導に努めた。

#### ア 登録及び登録除外の状況(潜在性結核感染症含む)

平成26年中

	H25 年末現在 登録数	年内登録			年内登録除外			H26 年末現在 登録数
		新規	転入	計	除外	転出	計	
管内 計	85	31	1	32	29	1	30	87
伊賀市	52	13	0	13	18	1	19	46
名張市	33	18	1	19	11	0	11	41

#### イ 新登録患者数(活動性分類、性別、年齢階級別)

平成26年中

病型別  年齢区 分	活動性結核															(別掲) 潜在性 結核感染症		
	計			肺結核活動性										肺外結核				
				喀痰塗抹 陽性			その他 結核菌陽性			菌陰性・ その他				活動性				
				計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女			
計	18	7	11	5	3	2	2	1	1	2	1	1	9	2	7	13	6	7
0~4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10~14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15~19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20~29	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	2	0
30~39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40~49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2	4
50~59	4	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	1	2	1	0	1
60~69	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	1	2
70~	12	5	7	5	3	2	2	1	1	1	0	1	4	1	3	1	1	0

ウ 年末現在登録者数(活動性分類、受療状況別)

平成 26 年 12 月 31 日現在

区分	病型別	計	活動性結核				肺外結核 活動性	不活動 性結核	活動性 不明
			肺結核活動性(登録時)			その他 結核菌陽 性			
			計	喀痰塗抹 陽性	菌陰性、 その他				
計	60	4	3	1	0	6	45	5	
入院	6	4	3	1	0	2	0	0	
うち、37条適用	5	3	2	1	0	2	0	0	
在宅医療	5	0	0	0	0	4	0	1	
医療なし	49	0	0	0	0	0	45	4	
医療状況不明	0	0	0	0	0	0	0	0	

エ 市別結核登録患者の状況

平成 26 年 12 月 31 日現在

市町別	病型別	計	活動性結核				不活動 性結核	活動性 不明
			肺結核活動性(登録時)			肺外結核 活動性		
			喀痰塗抹 陽性	その他結 核菌陽性	菌陰性・ その他			
管内 計	60	3	1	0	6	45	5	
伊賀市	34	1	1	0	3	28	1	
名張市	26	2	0	0	3	17	4	

オ 市別結核新登録患者の状況

平成 26 年中

市町別	病型別	計	活動性結核				肺外結核 活動性	罹患率 (10万対)	(別掲) 潜在性 結核 感染症
			肺結核活動性(登録時)			その他 菌陰性・ その他			
			計	喀痰塗抹 陽性	その他結 核菌陽性				
管内 計	18	9	5	2	2	9	10.5	13	
伊賀市	9	4	1	2	1	5	9.7	4	
名張市	9	5	4	0	1	4	11.4	9	

## (2) 結核検診実施状況

平成 26 年度

対象別	項目	予防接種			胸部エックス線撮影		喀痰 検査 者数	ツベルク リン検査	QFT 検査	結核患 者発見 者数
		対象者数	BCG接 種者数	接種率	対象者数	受診者数				
定期	計	1,248	1,254	100.5%	61,632	19,287	-			-
	事業者				6,869	6,804	-			-
	学校長				1,649	1,646	-			-
	施設の長				1,753	1,661	-			-
	市町長	1,248	1,254	100.5%	51,361	9,176	-			-
定期外	計		-			130	-	11	119	2
	患者家族等		-			84	-	11	119	2
	患者管理		-			46	-	-	-	-

## (3) 市町別一般住民結核健康診断実施状況

平成 26 年度

市町別	項目	住民健診 対象者数 (A)	BCG対 象者数 (B)	BCG接 種人員 (C)	(C) / (B) %	胸部エックス線撮影			結核 患者 発見 数(G)	(G) / (D) %	
						受診人員		(D) / (A) %			
						間接撮影 数	直接撮影 数				計(D)
計		51,361	1,248	1,254	100.5%	4,384	4,792	9,176	17.9%	-	-
伊賀市		28,745	667	648	97.2%	4,384	480	4,864	16.9%	-	-
名張市		22,616	581	606	104.3%	0	4,312	4,312	19.1%	-	-

## (4) 感染症診査協議会委員名簿(順不同)

平成 26 年 4 月 1 日現在

氏 名	役 職 名
坂井 隆	独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター 名誉院長
猪木 達	社会医療法人 畿内会 岡波総合病院 院長
町支 素子	医療法人まちし会 まちクリニック 院長
山本 政三	元上野市社会福祉協議会常務理事
國富 静代	人権擁護委員

## (5) 結核健康相談開催

接触者健診及び管理検診

毎月第 2、4 週の木曜日 午後 12 時 30 分から午後 13 時 受付

(6) 感染症診査協議会における結核医療診査状況

ア 感染症法第 37 条申請診査件数

平成 26 年中

区分	申請別	計	新規申請 (法 20 条第 1 項)	継続申請 (法 20 条第 4 項)	解除
申請件数		15	6	9	6
承認件数		15	6	9	6

イ 感染症法第 37 条の 2 申請診査件数

平成 26 年中

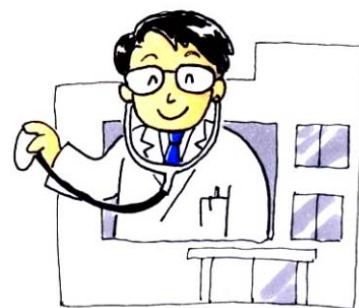
区分	保険別	計	被用者保険		国保	後高	生保	その他
			本人	家族				
申請件数		43	16	8	2	17	0	0
承認件数		42	16	7	2	17	0	0

(7) 結核統計

結核死亡数・率、罹患数・率、有病数・率 平成 26 年

市別		計	伊賀市	名張市
* 人口 (H26.10.1 現在)		171,538	92,905	78,633
死亡結核	総数	1	-	1
	率(10 万対)	0.6	-	1.3
罹患率	総数	18	9	9
	率(10 万対)	10.5	9.7	11.4

\* 資料:三重県戦略企画部統計課推計人口



(8) 結核対策特別促進事業

ア 目的

入院中は院内 DOTS により確実に服薬がされていても、退院後は服薬管理について不安感をもったり、患者を取り巻く環境により服薬の継続が困難になる等の問題が生じる場合がある。確実に服薬が継続できるよう地域 DOTS が重要であるため、全ての登録患者を対象として保健師による定期的な訪問・面接等を行い、治療の必要な患者が確実な服薬ができるよう、医療機関と保健所が連携を図り、地域での服薬支援体制の充実を図る。

イ 事業内容

(ア) 訪問・電話連絡等で定期的に患者及び家族に服薬・受療状況の確認・支援を行った。

平成 26 年度

	DOTS 対象者 数	DOTS 実施数	内訳			
			訪問DOTS	郵送DOTS	来所DOTS	連絡DOTS
実件数	43	42	4	14	3	7
延べ数		119	32	30	7	50

(イ) 医療機関での DOTS カンファレンスに参加し、服薬支援状況・結果等を報告した。

「訪問結果報告書」「面接報告書」を使用して、医療機関との情報共有を行った。

DOTSカンファレンス

平成 26 年度

開催場所	参加回数	対象者数
三重中央医療センター	5 回	9 名

\* DOTS カンファレンス: 医療機関の医師、看護師、薬剤師や保健所の保健師等が通院後の確実な服薬支援方法について検討、協議する会議

ウ 結果

入院時の病棟訪問や退院後の早期家庭訪問により患者の生活状況を確認し、DOTS の方法については患者が主体的に取り組めるよう患者とともに決定した。

高齢の患者については服薬のキーパーソンが家族であり、家族を巻き込んだ DOTS は有効であった。また、福祉サービスを利用している患者に対しても DOTS を実施し、施設職員に対して保健所が服薬確認を行うことで、施設での患者の過ごし方や薬の副作用について施設職員から相談されることが多く、細やかに対応することができた。

服薬確認することで、服薬継続について患者や家族、関係者への意識づけ・動機づけができた。

また、DOTS カンファレンスでは、患者の病状・生活状況・患者自身の療養態度・家族の協力状況などを情報共有することで、個々の患者・家族に応じた服薬支援を検討するのに非常に有効な機会であった。



## 121 医師確保と医療体制の整備

### 12101 医療分野の人材確保

(主担当:保健衛生室 地域保健課)

#### 主な取組内容

- 1 専門技術研修会への参加及び市保健師等地域保健関係者の資質向上を図るための会議及び研修会を行っています。
- 2 管理栄養士・看護師及び保健師を目指す学生に対して、保健所実習を通じて地域における栄養・看護活動の展開について臨地学習指導をおこなっています。

#### 1 管内保健師設置状況

平成 27 年 4 月 1 日現在

	総数	保健所	伊賀市	名張市
設置人員	46	9	21	17

#### 2 保健師等研修状況

##### (1) 管内保健師研修会等の開催

###### ・管内保健師研修会

日 時 平成 26 年 12 月 20 日

講 演 「災害時の保健師活動について」

講 師 国立保健医療科学院 健康危機管理研究部 (併) 生涯健康研究部

公衆衛生看護研修領域 上席主任研究官 奥田 博子 氏

参加者 伊賀管内保健師 35 名

###### ・管内統括保健師会議

保健師の人材育成体制での現状と課題整理、対応策の検討等を実施。

9 回 / 年開催 参加者 管内統括保健師 延べ 34 人

##### (2) 保健師技術研修への参加

・新任期二次、三次研修会および幹部管理者研修会等への参加 延べ 7 回、8 人

・人材育成会議および業務検討会議への参加 延べ 5 回、14 人



#### 3 看護学生等保健所実習指導

	所 属 名	実習期間(日)	人員(名)
看護学科学生	三重県立看護大学看護学科	4	12
	三重大学医学部看護学科	12	4
管理栄養士学生	鈴鹿医療科学大学医療栄養学科	5	5

## 12102 救急・へき地等の医療の確保

(主担当:保健衛生室 総務企画課)

### 主な取組内容

- 1 地域住民の救急医療を確保するため、伊賀管内の一次救急、二次救急および救命救急医療体制の整備を行います。
- 2 救急告示医療機関との連携をはかります。

### 1 地域救急医療対策事業

伊賀地域では、両市の応急診療所による一次救急医療体制と併せて2市3病院による二次救急医療体制がとられている。

しかしながら、病院における医師不足は依然つづいており、二次救急医療体制は大変厳しい状況に置かれている。

一方、救急搬送体制の整備・強化を図るため、伊賀地域メディカルコントロール部会において救急措置活動の Protokol 作成や救急搬送事例の事後検証を行うとともに、救急救命士の再教育についても検討した。

#### (1) 伊賀地域メディカルコントロール部会(協議会)

- ア 開催回数:2回
- イ 開催場所:三重県伊賀庁舎
- ウ 出席者数:第1回10名、第2回8名、

### 2 救急告示病院

救急告示病院は、地域における救急業務の対象となる傷病者の発生状況等を考慮して認定する。

#### (1) 伊賀地域救急告示病院

平成27年4月1日現在

名称	郵便番号	住所	電話番号	ファックス番号
伊賀市立上野総合市民病院	518-0823	伊賀市四十九町 831	24-1111	24-2268
社会医療法人畿内会 岡波総合病院	518-0842	伊賀市上野桑町 1734	21-3135	21-5237
名張市立病院	518-0481	名張市百合が丘西1番町 178	61-1100	64-7999

## 12103 医療の質の向上

(主担当:保健衛生室 総務企画課)

### 主な取組内容

- 1 地域医療提供体制の整備をはかるため、日常の健康管理や適切な初期診療などを身近なところで提供する「かかりつけ医」の推進をはかります。

## 1 医務

管内における医療施設の状況は次のとおり。

### (1) 施設数

平成 27 年 4 月 1 日 現在

区分	市名		
	総数	伊賀市	名張市
病院	6	4	2
一般診療所	139	76	63
歯科診療所	69	33	36
助産所	1	1	0
施術所	115	59	56

### (2) 病床数(病院)

平成 27 年 4 月 1 日現在

	病 院						病床率 (人口 10 万対)
	総数	精神 病床	感染症 病床	結核 病床	一般 病床	療養 病床	病院
伊賀市	1,078	410	0	0	628	40	1171.9
名張市	335	0	0	0	255	80	428.3
管内計	1,413	410	0	0	883	120	830.2

\* 人口については三重県戦略企画部統計課(平成 27 年 4 月 1 日現在推計人口)

## 123 こころと身体 の健康対策の推進

### 12301 健康づくり活動の推進

(主担当:保健衛生室 健康増進課・地域保健課)

#### 主な取組内容

- 1 質の高い健康文化を築き、住民がいいきと生活できる「健康長寿地域・伊賀」を目指して、健康づくり活動の協働体制に向けた働きかけを積極的に行っていきます。
- 2 市をはじめ、企業、団体等と協働して、食生活、たばこ、運動、こころの健康づくり、歯科保健対策等生活習慣の改善に向けて、県民の健康づくりを支援します。
- 3 野菜摂取量の増加と朝食習慣の定着と朝食における野菜の摂取を推進し、県民が健康的な食生活が実践できるよう支援します。
- 4 給食施設指導を充実し、県民が適正な食生活を営む力をつけることを支援します。
- 5 みえの食生活指針・食事バランスガイドの普及啓発を広く県民に行うとともに、多様な主体と協働した食環境づくりを推進します。

#### 1 健康づくり総合推進事業

地域や企業、関係団体及び関係機関が集い情報交換をおこなうとともに、専門的な知識や情報の共有を通して地域の健康課題の解決を図るため懇話会等を開催した。

##### (1) いがの国健康づくり地域・職域連携推進懇話会

日 時	場 所	委員出席者数	内 容
平成 26 年 7 月 10 日	県伊賀庁舎 中会議室	12 名	① 情報提供 ・三重県における自殺の現状と対策について ・健康に関する最近の話題 (睡眠指針、栄養食生活 等) ② 意見交換 ・健康づくり事業の取組について

##### (2) 研修会

日 時	場 所	参加者数	内 容
平成 26 年 10 月 3 日	県伊賀庁舎 大会議室	27 名	講演「エネルギー密度に基づいた食事の選択」 講師:徳島大学大学院 助教 奥村 仙示 氏
平成 26 年 10 月 18 日	県伊賀庁舎 大会議室	24 名	講演「タッピングタッチ ～心豊かに健康な生活を送るために～」 講師:鈴鹿医療科学大学 教授 中川 一郎 氏

##### (3) 情報交換会

日 時	場 所	参加者数	内 容
平成 26 年 6 月 24 日	県伊賀庁舎 中会議室	9 名	① 情報交換 ・健康づくり事業の評価及び計画について

平成 26 年 9 月 19 日	上野病院	12 名	① リワーク事業説明・施設見学 ② 意見交換 ・復職支援について
平成 26 年 11 月 6 日	(株) エクセディ	12 名	① 健康づくり事業説明・食堂見学 ② 意見交換 ・労働者への健康づくり対策について

## 2 健康食育推進事業

### (1) 野菜フル 350 推進事業

県民が健康的な食生活が実践できるように 1 日の野菜摂取量の目標量を 350g(食事バランスガイドで副菜 5 つ)として野菜摂取の増加を推進する。同時に、健康的な朝食習慣の定着化を図るため朝食における野菜摂取量の目標量を 70g(食事バランスガイドで副菜 1 つ)を推進するためにセミナー、啓発を実施した。

#### ア セミナー

開催日等	開催場所	対象団体	人数	内容
平成 26 年 9 月 8 日	アスピーア	理美容関係者	113 名	講義「野菜をたくさん食べよう」
平成 26 年 10 月 7 日	伊賀庁舎	食品衛生協会調理師 部会	20 名	講義・デモンストレーション 「干し野菜は身近な災害食」 情報提供「野菜を食べよう」

#### イ 協働啓発活動

開催日	イベント名	対象者	人数	実施場所
平成 26 年 10 月 7 日	COOPみえ 2014 商品・くらし の活動交流会	COOP会員	100 名	上野フレックスホテル
平成 26 年 10 月 26 日	名張市体育・健康フェスタ	住民	180 名	名張市総合体育館

### (2) 健康づくり応援の店

健康に配慮した食事や健康づくりに関する適切な情報を提供する飲食店を「健康づくり応援の店」として登録し、県民の健康づくりを支援する。

平成 27 年 3 月 31 日現在 15 店舗

### 3 栄養施行事務事業

#### (1) 給食施設指導

健康増進法、健康増進法施行規則に基づき、給食施設の把握、給食施設における栄養管理・食育の充実に向けた指導助言等を行った。

##### ア 給食施設従事者研修会

開催日	開催場所	対象者	人数	内容
平成 26 年 10 月 3 日	伊賀庁舎 大会議室	管内給食施設従事者	53 名	講演 「エネルギー密度に基づいた食事の選択」 情報交換

##### イ 特定給食施設等巡回指導

	巡回指導施設数	備考
特定給食施設	20	指定施設 1 を含む
一般給食施設	17	
計	37	

#### (2) 栄養表示指導

健康増進法第 26 条に基づく特別用途食品表示、栄養表示基準並びに同法第 32 条の 2 に基づく誇大表示の禁止に関する相談や指導・助言を行った。

内容	対象者	件数
虚偽誇大広告、栄養表示相談・指導	事業者等	7 件

#### (3) 人材育成・支援

地域で活動する市民団体や食に関係する職域の専門職種、食育関係者等に対して研修や情報発信等を行うことにより、地域リーダーの育成と活動の活性化に向けた支援を行った。

##### ア 地区組織育成・支援

食生活改善推進員の育成に対する支援、組織活動に対する育成・支援を行った。

種別	対象者	内容	回数
総会	伊賀市食改協	地区組織活動について	1 回
リーダー研修会	伊賀地区食改協	実習献立指導及び情報提供 等	9 回
木の芽会研修	木の芽会会員	実習献立指導 骨粗鬆症予防 等	5 回

## イ 専門職種への支援

	内容	実施回数
市栄養士	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会</li> <li>・管理栄養士臨地実習について助言・協働</li> <li>・食生活改善推進員養成講座支援</li> </ul>	3回 1回 2回
地域活動栄養士	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会</li> <li>・会員研修への場所及び情報の提供</li> <li>・啓発媒体等の提供</li> </ul>	3回

## (4) 栄養相談・指導

健康増進法第18条に基づく栄養相談・指導を実施した。

	個別指導延べ人数			集団指導延べ人数	
	栄養指導	(再掲) 病態別	(再掲) 訪問による	栄養指導	(再掲) 病態別
妊産婦	0	0	0	0	0
乳幼児	0	0	0	0	0
20歳未満	0	0	0	0	0
20歳以上	5	2	0	0	0

## (5) 国民健康・栄養調査

該当なし



フェアリーベジ(野菜の妖精)があなたの食生活を応援します!

## 12302 こころの健康づくりの推進

(主担当:保健衛生室 健康増進課)

### 主な取組内容

- 1 自殺予防を含めたこころの健康問題についての正しい理解の普及啓発をはかり、関係機関と連携をはかりながら共に支えあい安心して生活できる地域づくりを目指します。
- 2 市が実施するこころの健康づくり対策の側面的支援を行い、市におけるメンタルヘルス事業の推進をはかります。

## 1 こころの健康づくり事業

### (1) こころの健康づくり研修会の開催

県民が「こころの健康」について関心を持ち、命の大切さを認識し、安心して生き生きと生活できる地域づくりを目指すため、タッピングタッチを通じて、こころと体の緊張をほぐし、本来の明るさや優しさをとれどし、みんなで仲良く生活することの楽しさを理解できる研修会を開催した。

日 時 平成 26 年 11 月 18 日(土)13 時 30 分から 16 時 00 分

場 所 三重県伊賀庁舎 7 階大会議室

内 容 講演「タッピングタッチ～心豊かに健康な生活を送るために～」

講師 鈴鹿医療科学大学医療福祉学科臨床心理コース教授 中川一郎 氏

参加者 県民 食品衛生協会関係者、ボランティア等 24 人

### (2) こころの健康づくりに関する啓発

企業のイベント及び市が開催する健康まつりに参加し、保健所ブースでこころの健康づくりに関する啓発を実施した。

開催日	平成 26 年 10 月 26 日	平成 26 年 10 月 7 日
場 所	名張市総合体育館	上野フレックスホテル
内 容	パネル展示、各種パンフレット・啓発グッズ配布	
来場者	約 180 名	100 名

## 2 自殺予防対策

自殺が個人的な問題としてのみ捉えられるものではなく、その背景には、様々な社会的要因があることをふまえ、市民や関係機関に対して命の大切さについて理解を深めることや、自殺や精神疾患に対する正しい知識の普及・啓発を行い、地域での自殺予防対策の取り組みについて説明した。

### (1) 自殺予防に関する啓発事業

ア 管内課長会議でこころの健康づくり、自殺予防対策について説明

イ 管内保健師業務連絡会議で県の自殺予防対策の取り組みについて説明

市民への自殺予防の啓発

・自殺予防週間及び自殺対策強化月間の啓発



- ・庁舎内で「自殺予防週間」、「自殺対策強化月間」にのぼりを立て、啓発グッズを配布
- ・伊賀保健所HPに関連記事を掲載
- ・街頭啓発

	日時	場所	内容
自殺予防 週間	平成 26 年 9 月 11 日 7:30～8:30	伊賀鉄道上野市駅周辺	「自殺予防週間」ののぼり旗を立て、啓発グッズを配布 自殺予防の声かけ (伊賀市・名張市と共催)
	平成 26 年 9 月 10 日 7:30～8:30	近鉄名張駅周辺	
自殺対策 強化月間	平成 27 年 3 月 2 日 11:00～	アピタ伊賀上野店	「自殺対策強化月間」ののぼり旗を立て、啓発グッズを配布 自殺予防の声かけ (伊賀市・名張市と共催)
	平成 27 年 2 月 27 日 13:30～	アピタ名張店	
		マックスバリュ名張店	

## (2) 人材育成

### ア メンタルパートナー養成

自殺予防について正しい知識を持ち、身近な人の変化に気づき、自殺を考えている人、悩んでいる人を相談窓口等へつなぐ役割が期待される人を養成する。

研修内容		参加者数
メンタルパートナー指導者養成研修		2名
メンタルパートナー養成研修(伊賀管内)		211名
メンタルパートナー養成研修 開催主体別	伊賀市	159名
	名張市	42名
	伊賀保健所	10名
	その他	0名

### イ 精神保健ボランティア「ほほえみ」の継続研修

こころの健康づくり講演会を会員のスキルアップを図る継続研修と位置づける 参加者:4名

ウ メンタルパートナー指導者のスキルアップに相談窓口対応力向上研修参加 参加者:1名

### エ 伊賀管内保健師研修会の開催

災害時の保健師活動について、こころのケアを中心に課題解決ができる保健師を養成する。

開催日時:平成 26 年 12 月 20 日(土)9時から 12 時

開催場所:県伊賀庁舎7階大会議室

研修内容:「災害時の保健師活動について～災害時の連携を見据えての平時の在り方を考える～  
(こころのケアを中心に)」

講師 国立保健医療科学院健康危機管理研究部 上席主任研究官 奥田博子氏

参加者 管内保健師 35 名(名張市 9 名、伊賀市 19 名、保健所 7 名)

(3) 地域自殺・うつ対策ネットワーク

質の高い健康文化を築き、住民がいきいきと生活できる長寿地域・伊賀を目指して、いがの国健康づくり地域・職域連携推進懇話会を設置しており、こころの健康づくり・自殺対策を推進していく。

いがの国健康づくり地域・職域連携推進懇話会(自殺対策ネットワーク会議)開催状況

開催日	内 容	参加者
H26. 7. 10 (木) 15:00～	第1回懇話会 委員紹介 (情報提供) 三重県における自殺の現状と対策について 情報提供者 三重県こころの健康センター 出口理恵 氏 健康に関する最近の話題 (意見交換)健康づくり事業の取組について	懇話会委員 12名 保健所等職員 5名 情報提供者 1名 計 18名
H26. 6. 24 (火) 14:00～	第1回いがの国健康づくり地域・職域情報交換会 ・健康づくり事業の評価及び計画について	地域・職域健康づくり担当者 9名
H26. 9. 19 (金) 14:00～	第2回いがの国健康づくり地域・職域情報交換会 ・施設見学(上野病院) ・リワーク事業説明(上野病院) ・復職支援について	地域・職域健康づくり担当者 12名
H26. 11. 6 (木) 10:00～	第3回いがの国健康づくり地域・職域情報交換会 ・健康づくり事業説明及び体験(エクセディ) ・労働者への健康づくり対策について	地域・職域健康づくり担当者 12名

(4) その他

ア 精神保健相談(毎月第4水曜日) 相談件数: 23件(実人数 17件)

イ 自殺・うつ関係相談(随時)面接相談 1件(実人員 1件)

電話相談 10件(実人員 8件)

ウ 関係機関との連絡調整

- ① 管内保健福祉課・室長会議で自殺予防対策について説明(H26.5.9)
- ② 管内精神保健福祉連絡協議会等において関係者に対し研修会の案内、協力依頼等随時実施
- ③ 伊賀管内保健師業務連絡会、自殺予防週間、自殺対策強化月間における情報交換で事業実施を調整

## 12303 生活習慣病・難病対策の推進

(主担当:保健衛生室 健康増進課・地域保健課・衛生指導課)

### 主な取組内容

- 1 原子爆弾被爆者の健康管理や各種手当の支給等を実施します。
- 2 難病患者およびその家族の QOL(生活の質)の向上をはかります。
- 3 県民に臓器移植に対する理解と協力を求めるため、啓発事業を行います。
- 4 休日ドナー登録をはじめとする骨髄バンク普及啓発およびドナー登録の推進をはかり、新規ドナー登録者の確保に努めます。

### 1 原子爆弾被爆者対策事業

原子爆弾被爆者の援護に関する法律に基づき、被爆者健康手帳所持者の健康管理のため、年2回の定期健康診断及び希望者に対してがん検診を実施した。

また、同法に基づく各種手当を対象者に支給した。

(1) 被爆者健康手帳所持者 49人 平成27年3月31日現在

	伊賀市	名張市
所持者数	15	34

(2) 被爆者健康診断受診状況

ア 定期健康診断受診者数

第1回 21人 (うち要精検者数 10人)

第2回 15人 (うち要精検者数 6人)

イ がん検診受診者数

平成26年度

	胃がん	肺がん	乳がん	子宮がん	多発性 骨髄腫	大腸がん
受診者数	4	4	2	1	4	4
要精検者数	0	0	0	0	0	3

(3) 各種手当受給状況

平成27年3月31日現在

	医療特別 手当	健康管理 手当	保健手当 (一般)	保健手当 (増額)	介護手当	家族介護 手当	葬祭料
支給対象者数	2	43	0	1	0	1	4

## 2 難病対策事業

### (1) 難病法に基づく特定医療費の支給事業

平成27年1月1日から「難病の患者に対する医療費等に関する法律」が施行され、110の指定難病について認定基準を満たした申請者に特定医療費(指定難病)受給者証を交付した。

特定医療費(指定難病)受給者数

平成26年度(平成27年3月末現在)

番号	疾病名	男	女	合計
1	球脊髄性筋萎縮症	1	0	1
2	筋萎縮性側索硬化症	7	5	12
3	脊髄性筋萎縮症	0	0	0
4	原発性側索硬化症	0	0	0
5	進行性核上性麻痺	4	6	10
6	パーキンソン病	121	74	195
7	大脳皮質基底核変性症	4	5	9
8	ハンチントン病	1	0	1
9	神経有棘赤血球症	0	0	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	0	0
11	重症筋無力症	9	18	27
12	先天性筋無力症候群	0	0	0
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	6	19	25
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	2	2	4
15	封入体筋炎	0	0	0
16	クローウ・深瀬症候群	0	0	0
17	多系統萎縮症	11	6	17
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	15	15	30
19	ライゾゾーム病	1	0	1
20	副腎白質ジストロフィー	0	0	0
21	ミトコンドリア病	0	1	1
22	もやもや病	4	19	23
23	プリオン病	0	3	3
24	亜急性硬化性全脳炎	0	0	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	0	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	0	0
27	特発性基底核石灰化症	0	0	0
28	全身性アミロイドーシス	5	5	10
29	ウルリッヒ病	0	0	0
30	遠位型ミオパチー	0	0	0

番号	疾病名	男	女	合計
31	ベスレムミオパチー	0	0	0
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	0	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	0	0
34	神経線維腫症	3	1	4
35	天疱瘡	5	4	9
36	表皮水疱症	0	0	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	1	1	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	1	1
39	中毒性表皮壊死症	0	0	0
40	高安動脈炎	1	9	10
41	巨細胞性動脈炎	0	0	0
42	結節性多発動脈炎	1	4	5
43	顕微鏡的多発血管炎	5	4	9
44	多発血管炎性肉芽腫症	0	2	2
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	0	0	0
46	悪性関節リウマチ	0	4	4
47	バージャー病	10	1	11
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	0	0
49	全身性エリテマトーデス	13	62	75
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	13	22	35
51	全身性強皮症	7	58	65
52	混合性結合組織病	0	14	14
53	シェーグレン症候群	0	1	1
54	成人スチル病	0	1	1
55	再発性多発軟骨炎	2	0	2
56	ベーチェット病	13	9	22
57	特発性拡張型心筋症	44	11	55
58	肥大型心筋症	6	5	11
59	拘束型心筋症	0	0	0
60	再生不良性貧血	8	8	16
61	自己免疫性溶血性貧血	0	0	0
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0	0	0
63	特発性血小板減少性紫斑病	12	26	38
64	血栓性血小板減少性紫斑病	0	0	0
65	原発性免疫不全症候群	0	0	0
66	IgA腎症	0	1	1

番号	疾病名	男	女	合計
67	多発性嚢胞腎	0	1	1
68	黄色靭帯骨化症	4	0	4
69	後縦靭帯骨化症	27	14	41
70	広範脊柱管狭窄症	8	5	13
71	特発性大腿骨頭壊死症	7	3	10
72	下垂体性ADH分泌異常症	2	1	3
73	下垂体性TSH分泌亢進症	0	0	0
74	下垂体性PRL分泌亢進症	3	3	6
75	クッシング病	0	2	2
76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1	0	1
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	3	3	6
78	下垂体前葉機能低下症	8	7	15
79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0	0	0
80	甲状腺ホルモン不応症	0	0	0
81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0	0	0
82	先天性副腎低形成症	0	0	0
83	アジソン病	0	0	0
84	サルコイドーシス	10	16	26
85	特発性間質性肺炎	3	3	6
86	肺動脈性肺高血圧症	2	6	8
87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0	0	0
88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2	5	7
89	リンパ脈管筋腫症	0	1	1
90	網膜色素変性症	13	21	34
91	バッド・キアリ症候群	0	0	0
92	特発性門脈圧亢進症	0	0	0
93	原発性胆汁性肝硬変	6	29	35
94	原発性硬化性胆管炎	0	0	0
95	自己免疫性肝炎	1	0	1
96	クローン病	27	15	42
97	潰瘍性大腸炎	94	84	178
98	好酸球性消化管疾患	0	0	0
99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0	0	0
100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0	0	0
101	腸管神経節細胞僅少症	0	0	0
102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0	0	0

番号	疾病名	男	女	合計
103	CFC症候群	0	0	0
104	コステロ症候群	0	0	0
105	チャージ症候群	0	0	0
106	クリオピリン関連周期熱症候群	0	0	0
107	全身型若年性特発性関節炎	0	0	0
108	TNF受容体関連周期性症候群	0	0	0
109	非典型溶血性尿毒症症候群	0	0	0
110	ブラウ症候群	0	0	0
総計		556	646	1202

### (2) 特定疾患治療研究事業

難病法の施行前に特定疾患治療研究事業で対象とされていた特定疾患のうち、難病法に基づく特定医療費の支給対象となる指定難病以外の疾患については、治療がきわめて困難であり、かつ、その医療費も高額であるため、申請により特定疾患医療受給者証を交付した。

#### 特定疾患医療受給者数

平成26年度(平成27年3月末現在)

番号	疾病名	男	女	合計
1	スモン	0	2	2
2	難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0	0	0
3	重症急性膵炎	2	1	3
4	プリオン病(ヒト由来乾燥硬膜移植によるクロイツフェルト・ヤコブ病に限る)	0	0	0
5	重症多形滲出性紅斑(急性期)	0	0	0
総計		2	3	5

### (3) 肝炎治療特別促進事業

B型、C型ウィルス性肝炎インターフェロン治療・インターフェロンフリー治療・核酸アナログ製剤治療の医療費を助成することで、早期治療を促進し、将来の肝硬変、肝がんの予防及び肝炎ウィルスの感染防止をする。

公費負担医療受給状況:平成26年度中

B型肝炎 86件(新規12件、更新74件)

C型肝炎 113件(延長3件、2回目1件を含む)

### 3 難病在宅ケア事業

管内における患者の実態を明らかにし、個別ケアを中心とした支援活動を充実させながら、在宅ケアを支えていくための医療・保健・福祉を包括したネットワークづくりを目指して各種事業を実施した。

#### (1) 難病地域ケア会議(実務者)

在宅難病患者を取り巻く関係者がネットワークを構築することにより、包括的な支援が提供できるようケア会議への参加を行った。

\* ALS: 筋萎縮性側索硬化症

開催年月日 病名・場所	参加者	検討内容
H26.4.24 ALS (自宅)	ケアマネジャー、訪問看護師、 デイサービスセンター職員、福 祉用具業者、家族、保健所保 健師	療養生活上の問題点、今後の方向性について情 報の共有
H26.5.27 ALS (自宅)	ケアマネジャー、訪問看護師、 本人・家族、保健所保健師	病状進行に伴う支援、今後の療養生活、介護者の 負担軽減について
H26.7.15 ALS (自宅)	ケアマネジャー、医師、本人・家 族、保健所保健師	家族の介護負担軽減、レスパイト入院について
H26.8.5 ALS (自宅)	ケアマネジャー、本人・家族、保 健所保健師	病状進行に伴う支援、ケアマネジャーの導入、介 護保険申請・介護用品について
H26.8.29 ALS (自宅)	ケアマネジャー、訪問看護師、 本人・家族、保健所保健師	入院中の様子や病状の共有、今後の方向性につ いて確認
H26.10.17 ALS (自宅)	ケアマネジャー、訪問看護師、 デイサービスセンター職員、介 護用品業者、家族、保健所保 健師	今後のサポート体制の統一
H27.1.26 ALS (自宅)	ケアマネジャー、訪問入浴事業 所、保健所保健師	術後の在宅療養状況の確認、必要なケアの検討・ 導入
H27.2.9 ALS (自宅)	ケアマネジャー、訪問看護師、 医師・看護師、福祉用具業者、 人工呼吸器業者、訪問入浴事 業所、CTF松阪、家族、保健所 保健師	意思伝達装置サポート事業について紹介、今後の 使用について検討



H27.3.30 ALS (自宅)	ケアマネジャー、本人・家族、保健所保健師	利用サービスについて検討、意思伝達装置サポート事業について
-------------------------	----------------------	-------------------------------

## (2) 個別ケアの充実

### ア 電話相談・面接相談

申請時手続きの来所者などを対象に面接を実施し、患者家族からの在宅療養上の相談に対応した。必要な人に対して電話相談、面接相談、訪問などを実施するとともに、関係機関につなげた。また特定医療費申請手続き等に関する相談に対応した。

### イ 家庭訪問

ALS 患者の全数把握や家族、その他関係機関から依頼のあったケースを中心に家庭訪問を実施し、関係機関と連携して課題の改善のための支援を行った。

#### 疾患別家庭訪問実施状況

疾患名	訪問件数
筋萎縮性側索硬化症(ALS)	実8件／延20件
合計	実8件／延20件

## (3) 訪問療養相談

療養上の相談を受けることが困難な在宅療養患者及び家族に対し、療養生活が適切に行われるよう、管理栄養士による専門的な栄養相談を実施した。

#### 訪問療養相談実施状況

開催月日	平成27年3月11日(水)
対象者	ALSの患者と家族
スタッフ	管理栄養士・保健師

## (4) 事例検討・研修会等

管内の関係機関・支援者が個別ケアについて情報共有を行うため、また患者を取り巻く関係者のネットワーク化をはかるために事例検討(支援会議)及び研修会を実施した。

### ア 事例検討(支援会議)

開催年月日 病名・場所	参加者	検討内容
H26.9.16 ALS (病院)	ケアマネジャー、医師、相談員、本人・家族、保健所保健師	手術の経過確認、情報交換、今後の方向性の意思統一

H26.10.2 ALS (病院)	ケアマネジャー、訪問看護師、医師、看護師長、受け持ち看護師、家族、保健所保健師	手術の経過確認、情報交換、今後のサポート体制の統一
H27.1.7 ALS (病院)	ケアマネジャー、訪問看護師、福祉用具業者、医師、相談員、看護師長、受け持ち看護師、理学療法士、家族、保健所保健師	手術の経過確認、情報交換、今後の方向性の意思統一
H27.1.7 ALS (病院)	ケアマネジャー、訪問看護師、福祉用具業者、医師、保健所保健師	病状悪化に伴う情報交換、今後の方向性の意思統一
H27.1.28 ALS (病院)	ケアマネジャー、訪問看護師、福祉用具業者、医師、看護師長、受け持ち看護師、連携室看護師、家族、保健所保健師	退院に向けてサポート体制の統一

#### イ 研修会

月 日 場 所	内 容	参 加 者
H26.9.9 県伊賀庁舎 大会議室	講演 テーマ: 神経難病患者のより良い在宅生活を支援するために (1) 講義①「神経難病の基礎知識」 講師 三重大学医学部附属病院 神経内科医師 佐々木良元氏 (2) 講義②「神経難病患者の在宅療養支援」 講師 岡波総合病院 言語聴覚士 鈴木真由氏	61人 伊賀管内のケアマネジャー、訪問看護師、ヘルパー、介護施設職員など在宅支援関係者

#### (5) その他

ALS の患者家族から、同じ疾患の患者や家族から話を聞きたいとの要望があり、患者会や難病相談支援センターの紹介を行った。

#### 4 臓器移植啓発事業

臓器提供に関する正しい知識の普及啓発を行い、臓器提供意思表示カードの推進を図っている。

##### (1) 臓器提供意思表示カード配布窓口業務

伊賀保健所の窓口において、「いのちの贈りものあなたの意思で救える命」パンフレットと臓器提供意思表示カードの掲示・配布を行った。

#### 5 ハンセン病啓発事業

ハンセン病について正しい知識と理解を持ち、偏見や差別のない、人権が尊重される社会を実現するための啓発を目的として、ホームページにおいて「ハンセン病問題を正しく理解しましょう」を掲載した。

#### 6 骨髄バンク

白血病や再生不良性貧血など血液難病の患者にとって、生への希望である骨髄バンクが円滑に実施されるよう、骨髄移植に関する正しい知識の普及啓発を行い、骨髄提供希望者登録(ドナー登録)の推進を図った。

##### (1) 骨髄提供登録受付窓口業務

毎月第2木曜日に登録受付を実施し、1名の登録があった。

##### (2) 臨時ドナー登録受付の実施

管内6ヶ所の献血会場にて受付を実施した結果、48名の登録があった。

## 134 薬物乱用防止等と医薬品の安全確保

### 13401 薬物乱用防止対策の推進

(主担当:保健衛生室 衛生指導課)

#### 主な取組内容

- 1 不正大麻とけし栽培の取締りを実施します。
- 2 薬物乱用の未然防止をはかるため、街頭における啓発活動等を実施します。
- 3 伊賀保健所内に覚醒剤等相談窓口を設置し、地域住民からの覚醒剤等に関する相談に応じます。

#### 1 薬物乱用防止対策

覚醒剤、麻薬、大麻、シンナーなどの薬物乱用は本人の心身に害を及ぼすことはもちろんのこと、凶悪犯罪を誘発するなど社会的、経済的にも計り知れない害悪を及ぼす。

そのため、県民に、薬物乱用の危害等薬物に関する情報を提供し、乱用防止の重要性についての啓発活動を実施した。

##### (1) 不正大麻・けし撲滅運動

ア 目的 不正大麻・けし撲滅運動期間中に大麻・けしの不正栽培の防止及び野性的大麻・けしを一掃するため、発見除去等に努める。

イ 実施年月日 平成 26 年 4 月 1 日～6 月 30 日

ウ 除去本数 けし 9ヶ所 284 本

##### (2) 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動街頭キャンペーン

ア 目的 覚醒剤等の薬物乱用は青少年をはじめとして広く県民に広がっている。そのため、青少年を主とし県民に薬物の恐ろしさ、乱用防止の大切さを強く訴え、乱用撲滅への意識の高揚を図った。また、薬物依存者等を支援するため、薬物関連の相談窓口等の充実を図った。

##### イ 実施内容等

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動街頭キャンペーン			
年月日	実施場所	対象人員	実施内容
平成 26 年 6 月 28 日	伊賀市 アピタ伊賀上野店	2,000	リーフレット・救急絆創膏等の 啓発資材の配布
平成 26 年 6 月 28 日	名張市 イオン名張店	2,000	

危険ドラッグ撲滅キャンペーン			
年月日	実施場所	対象人員	実施内容
平成 26 年 8 月 20 日	伊賀市 オークワジョイシティ上野店	2,000	リーフレット・クリアファイル・ポケット ティッシュ等の啓発資材の配布

麻薬・覚醒剤乱用防止運動			
年月日	実施場所	イベント名	実施内容
平成 26 年 10 月 10 日	原出公民館	ミニ集会(危険ドラッグ)について	リーフレット・ポケットティッシュ等の啓発資材の配布
平成 26 年 10 月 11 日	総合福祉ふれあいセンター	隠街道市	
平成 26 年 10 月 25 日	伊賀銀座通り	上野天神祭り	
平成 26 年 10 月 26 日	名張市総合体育館	名張市スポーツ健康フェスタ 2014	
平成 26 年 11 月 9 日	美旗古墳群	三重県スポーツ少年団交歓会	
平成 26 年 11 月 23 日	長田小学校	よっといでまつり	

薬物乱用防止講習			
年月日	実施場所	対象人員	参加者
平成 26 年 8 月 31 日	伊賀市 崇広中学校	60	伊賀市西大手町内住民
平成 26 年 9 月 4 日	伊賀市 上野フレックスホテル	32	上野東ロータリークラブ

## 13402 医薬品等の安全な製造・供給の確保

(主担当:保健衛生室 衛生指導課)

### 主な取組内容

- 1 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(以下、「医薬品医療機器等法」という。)、毒物及び劇物取締法、麻薬及び向精神薬取締法等に基づき、医薬品販売等施設に対する監視指導を実施します。
- 2 薬事関係業者の資質向上、自主管理体制の促進を目的に研修会等を関係団体と共同して実施します。
- 3 「愛の血液助け合い運動」をはじめとするキャンペーンに取り組み、献血思想の普及啓発等による献血の推進をはかり県内で必要な血液を確保します。

### 1 薬事

医薬品医療機器等法、毒物及び劇物取締法、麻薬及び向精神薬取締法等に基づきこれらの薬品の製造、流通、消費に至るまで保健衛生上の見地から監視指導を実施した。

#### (1) 医薬品等の品質、有効性、安全性の確保

医薬品医療機器等法に基づき、医薬品、医薬部外品等の品質、有効性、安全性を確保するため、製造業者、販売業者の監視指導を実施した。

#### (2) 毒物劇物による危害防止

ア 毒物劇物取扱状況実態調査を行うとともに、毒物劇物取扱者に対し監視指導を強化し、保管管理の徹底を図った。

イ 警察、消防機関と共同して毒物劇物運搬車両の路上取締りを実施した。

#### (3) 麻薬等の取扱・管理の適正化

麻薬及び向精神薬取締法に基づき、麻薬等の販売業者や麻薬診療施設を立入調査した。

### 2 講習会

薬事関係営業者及び薬物乱用防止指導員等に対して、各種講習会を行った。

年月日	実施場所	対象人員	実施内容
平成 26 年 8 月 31 日	崇広中学校	伊賀市西大手町内住民 60 名	薬物乱用防止について
平成 26 年 9 月 4 日	上野フレックスホテル	上野ロータリークラブ 32 名	薬物乱用防止について
平成 26 年 9 月 8 日	伊賀庁舎 7 階大会議室	伊賀・名張保護司会 43 名	薬物乱用防止について
平成 27 年 1 月 9 日	ウイツ青山学園高等学校	ウイツ青山学園高等学校 26 名	薬物乱用防止について

管内薬事関係施設数(平成 27 年 3 月 31 日現在)及び平成 26 年度立入検査数

医薬品営業関係施設

		施設数	立入検査延数	
医薬品	薬局	70	28	
	薬局製造販売医薬品製造業	9	7	
	薬局製造販売医薬品製造販売業	9	7	
	卸売販売業	15	5	
	特例販売業	2	1	
	店舗販売業	36	16	
医療機器	販売業	高度管理医療機器	58	14
		管理医療機器	501	75
合 計		700	153	

毒物劇物営業関係

業種		施設数	施立 入 検 査 数
製 造 業		12	7
販 売 業	一 般	62	24
	農 業 用 品 目	32	3
	特 定 品 目	3	0
合 計		109	34

麻薬関係

業種		施設数	施立 入 検 査 数
麻薬卸売販売業		1	1
麻薬小売販売業		34	20
麻薬診療施設	病 院	6	6
	一般診療所	48	5
	歯科診療所	0	0
	家畜診療所	11	3
合 計		100	35



### 3 献血推進

医療に必要な血液製剤をすべて自国の献血で確保する体制を早期に確立するため、献血思想の普及及び献血組織の充実に努めた。特に輸血の安全性を向上させる 400ml 献血及び成分献血への理解と協力を図っている。

また、少子高齢化の進行により献血可能人口の減少が避けられないなか、将来の献血事業を担う若年層に対し、献血思想の普及啓発を推進した。管内高校及び高等専門学校を訪問し、献血の啓発とヤングミドナサポーター事業への協力を依頼した。

その結果、近畿大学工業高等専門学校、ウィッツ青山学園高等学校、伊賀白鳳高等学校、あけぼの学園高等学校、名張高等学校(登録者数順)の計5校からヤングミドナサポーターとして計59名の登録があった。

\* ヤングミドナサポーター: 高校生等を対象とした献血ボランティア

#### (1) 「愛の血液助け合い運動月間」の実施

期 日	場 所	献血者数
平成 26 年 7 月 9 日	イオン名張店	39 名
平成 26 年 7 月 14 日	アピタ伊賀上野店	44 名

#### (2) 「ウインター献血キャンペーン」の実施

期 日	場 所	献血者数
平成 27 年 1 月 18 日	アピタ伊賀上野店	57 名
平成 27 年 2 月 18 日	イオン名張店	37 名

#### (3) 市別献血状況

平成 26 年度実績

市町別	献血者数			
	400mL	200mL	成分献血	計
伊賀市	1,706	0	0	1,706
名張市	753	0	0	753
伊賀管内	2,459	0	0	2,459
三重県	35,313	106	19,996	55,415

### 13403 生活衛生営業の衛生水準の確保

(主担当:保健衛生室 衛生指導課)

#### 主な取組内容

- 1 生活衛生関係事業者に対し衛生指導を行い、衛生水準の向上と自主管理体制の整備に努めます。
- 2 理容・美容所等の立入調査や旅館の監視指導を行っていきます。
- 3 公衆浴場、旅館業等の関係施設に対し、レジオネラ症発生防止のため、自主管理の徹底をはかるよう監視指導を重点的に実施します。

#### 1 生活衛生

理容所、美容所、クリーニング所、旅館、公衆浴場、興行場等日常生活に密着した営業施設に対して生活衛生水準の維持向上を図るため、施設の監視指導を行なうとともに従業員に対して衛生講習を実施した。

##### (1) 市別生活衛生関係営業施設・調査監視数

平成 27 年 3 月 31 日現在

業種		市	伊賀市	名張市	管内総数	平成 26 年度 調査監視件数
理容所			114	74	188	21
美容所			166	153	319	44
クリーニング所	工場		15	13	28	8
	取次所		90	78	168	2
旅館			52	33	85	20
公衆浴場			28	9	37	14
興行場			6	1	7	1
合 計			471	361	832	110

##### (2) 理容所・美容所従事者衛生講習

実施年月日	会 場	受講者数
平成 26 年 10 月 27 日	伊賀庁舎大会議室	理・美容師
		128 名
平成 26 年 9 月 8 日	名張市商工会議所	理・美容師
		82 名

## 13404 人と動物との共生環境づくり

(主担当:保健衛生室 衛生指導課)

### 主な取組内容

#### 1 狂犬病予防法等施行事務

- (1) 野犬の捕獲、抑留並びに飼い犬の引き取りを行い、狂犬病予防と犬による危害発生の防止を図ります。
- (2) 三重県動物の愛護及び管理に関する条例に基づき、飼い犬の適正飼養の啓発事業を実施します。

#### 2 動物愛護管理推進事業

- (1) 「動物の愛護及び管理に関する法律」及び「三重県動物の愛護及び管理に関する条例」に基づき、第一種動物取扱業の登録、特定動物による県民への危害発生の防止、犬猫の引取りを行います。
- (2) 動物愛護精神の高揚や適正飼養の普及啓発、小学生等を対象とした出前教室(「犬との接し方教室」や「動物愛護教室」)を開催します。

### 1 狂犬病予防法等施行事務

狂犬病予防法に基づく、犬の登録や狂犬病予防注射接種率の向上のため市と連携して、リーフレットを配布するなどの啓発活動を行った。

### 2 動物愛護

- (1) 動物の愛護及び管理に関する法律等に基づき、犬の放し飼い禁止の指導、飼えなくなった犬猫の引き取りを行った。

#### ●平成 26 年度犬・猫収容数、咬傷事故発生件数等

犬			猫			犬による咬傷 事故届出
抑留・収容数	返還頭数	処分頭数(※)	抑留・収容数	返還頭数	処分頭数(※)	
64 頭	22 頭	42 頭	168 匹	1 匹	167 匹	12 件

※処分頭数＝殺処分＋譲渡数

- (2) 第一種動物取扱業による動物の適正な取扱いの推進のため、飼養施設の監視指導を行った。

#### ●第一種動物取扱業の登録状況

平成 27 年 3 月 31 日現在

第一種動物取扱業 総業者数	第一種動物取扱業登録業種別内訳					業種別内訳計
	販売	保管	貸出し	訓練	展示	
85	58	36	3	9	5	111

- (3) 動物愛護精神の高揚や適正飼養を推進するため、広報媒体を活用するなど普及啓発を行った。また、小学生等を対象とした出前教室(「犬との接し方教室」や「動物愛護教室」)を 7 回開催した。

## 141 介護基盤整備などの高齢者福祉の充実

### 14101 介護保険事業の円滑な運営とサービスの質の向上

(主担当:保健衛生室 総務企画課)

#### 主な取組内容

- 1 介護サービス提供事業者に対し、新規・変更・更新指定申請時に必要な指導、助言を行い、介護サービスの質の確保に努めます。

## 1 介護保険制度

(1) 実施主体数 2 保険者(伊賀市・名張市)

(2) 要介護認定者の状況

平成 27 年 3 月 31 日現在

保険者	要介護認定者数(人)							
	合計	要支援		要介護				
		1	2	1	2	3	4	5
伊賀市	6,324	803	803	1,451	1,127	842	753	545
名張市	3,662	286	610	597	777	559	500	333
合計	9,986	1,089	1,413	2,048	1,904	1,401	1,253	878

(3) 介護度別居宅介護サービス受給者数

平成 27 年 3 月 31 日現在

保険者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
伊賀市	333	481	1,005	827	515	355	186	3,702
名張市	119	327	405	537	330	207	126	2,051
合計	452	808	1,410	1,364	845	562	312	5,753

(4) 施設種類別サービス受給者数

平成 27 年 3 月 31 日現在

保険者	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	介護療養型医療施設	計
伊賀市	751	400	25	1,176
名張市	434	155	34	623
合計	1,185	555	59	1,799

(5) 指定居宅・施設介護支援事業所数

平成 27 年 4 月 1 日現在

種別	事業者数	
	伊賀市	名張市
訪問介護	27	16
訪問入浴介護	3	1
居宅介護支援	33	18

種 別	伊賀市	名張市
訪問看護	7	7
通所介護	44	28
通所リハビリテーション	6	3
短期入所生活介護	15	7
福祉用具貸与	6	4
特定福祉用具販売	6	3
特定施設入所者生活介護	4	3
指定介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	15	8
介護老人保健施設(老人保健施設)	4	3
介護療養型医療施設(療養型病床群)	-	1
介護予防訪問介護	27	16
介護予防訪問入浴介護	3	1
介護予防訪問看護	6	7
介護予防通所介護	44	26
介護予防通所リハビリテーション	5	4
介護予防短期入所生活介護	12	7
介護予防福祉用具貸与	6	4
介護予防特定福祉用具販売	6	3
介護予防特定施設入所者生活介護	2	3

## 14102 介護基盤の整備促進

(主担当:保健衛生室 総務企画課)

### 主な取組内容

1 「みえ高齢者元気・かがやきプラン」(第4期三重県介護保険事業支援計画・第5次三重県高齢者福祉計画)に基づき、年度別に地域の実情を勘案して、老人保健福祉施設の整備を進めます。

### 1 老人保健福祉施設等の設置状況

平成27年4月1日現在(単位:施設数(定員))

	特別養護 老人ホーム	介護老人 保健施設	介護 療養型 医療施設	養護老人 ホーム	有料老人 ホーム	ケアハウス
伊賀市	15(769)	4(450)	0	3(170)	1(50)	1(50)
名張市	8(450)	3(228)	1(40)	1(50)	3(91)	3(80)
計	23(1,219)	7(678)	1(40)	4(220)	4(141)	4(130)

## 142 障がい者の自立と共生

### 14202 障がい者福祉サービスの充実

(主担当:保健衛生室 総務企画課)

#### 主な取組内容

1 障がい者および家族が、安心して地域生活をおくるための居宅介護などの訪問系サービス、生活介護等の日中活動系サービスを適切に利用できるよう、相談支援体制の充実やサービス提供基盤の整備促進を行います。

#### 1 障がい者福祉

障害福祉サービス事業者に対し、新規・変更等指定申請時に、必要な指導、助言を行った。

障害者総合支援法の適正な運用のため、各市や関係機関との調整を行うための圏域障がい福祉連絡協議会を計5回開催した。

##### (1) 身体障害(児)者手帳所持者の状況

平成 27 年 4 月 1 日現在

種別		視覚障害	聴覚障害	音声言語障害	肢体不自由	内部障害	計
伊賀市	児	3	8	0	33	10	54
	者	334	498	56	2,785	1,115	4,788
	小計	337	506	56	2,818	1,125	4,842
名張市	児	3	6	0	42	12	63
	者	186	329	41	1,840	821	3,217
	小計	189	335	41	1,882	833	3,280
管内計	児	6	14	0	75	22	117
	者	520	827	97	4,625	1,936	8,005
	計	526	841	97	4,700	1,958	8,122

##### (2) 療育手帳所持者の状況

平成 27 年 4 月 1 日現在

	A(最重度・重度)			B(中度・軽度)			合計		
	児	者	小計	児	者	小計	児	者	合計
伊賀市	45	259	304	117	308	425	162	567	729
名張市	43	221	264	129	263	392	172	484	656
計	88	480	568	246	571	817	334	1,051	1,385

##### (3) 管内の障がい福祉施設(居宅介護・重度訪問介護・同行援護・行動援護事業所を除く)

###### ア 障害福祉サービス事業所

平成 27 年 4 月 1 日 現在

サービスの種類	市名	件数	定員
生活介護	伊賀市	7	77
	名張市	8	168

放課後等デイ	伊賀市	3	30
	名張市	3	50
保育所等訪問	伊賀市	-	-
	名張市	1	-
児童発達支援	伊賀市	2	20
	名張市	1	16
短期入所	伊賀市	4	9
	名張市	6	31
就労移行支援	伊賀市	4	32
	名張市	1	12
就労継続支援A型	伊賀市	4	80
	名張市	1	10
就労継続支援B型	伊賀市	17	258
	名張市	8	175
自立(生活)訓練	伊賀市	1	11
	名張市	-	-
共同生活援助	伊賀市	17	80
	名張市	22	118
施設入所支援	伊賀市	1	20
	名張市	3	135
福祉型障害児入所施設	伊賀市	-	-
	名張市	1	30
一般相談支援	伊賀市	1	-
	名張市	2	-
特定相談支援	伊賀市	6	-
	名張市	4	-
障害児相談支援	伊賀市	2	-
	名張市	2	-

#### イ その他の福祉施設

平成 27 年 4 月 1 日 現在

施設の種類	施設等の名称	所在地	定員
点字図書館	上野点字図書館	伊賀市	-
盲人ホーム	伊賀市盲人ホーム	伊賀市	20 (通所)

## 14204 精神障がい者の保健医療の確保

(主担当:保健衛生室 地域保健課)

### 主な取組内容

- 1 地域精神保健福祉活動を推進するため、市および関係機関に対し専門的立場から技術指導及び技術支援を行います。
- 2 精神障がい者の療養、社会復帰等に対する相談、指導、援助を行います。
- 3 精神障がい者の地域生活をサポートするためのネットワークづくりを行います。
- 4 地域住民に精神障がいに対する正しい知識の普及啓発を行います。

### 1 精神保健福祉事業

#### (1) 精神保健医療対策

##### ア 精神保健措置事業

目的 医療及び保護のために入院させなければ、精神障がいのために自身を傷つけ又は他人に害を及ぼす恐れのある精神障がい者を精神保健指定医の診察の結果により保護し、医療を受けさせ自傷、他害の行為を防ぐ。

(ア) 精神保健福祉法に基づく申請、通報の受理・調査状況 平成 26 年度

区 分	小計	法 29 条該当		法 29 条非 該当	診察不要
		措置入院者数	緊急措置入院者数 (内措置入院となつ たもの)		
計	11	2	2(1)	7	0
法 22 条申請	0	0	0	0	0
法 23 条通報	11	2	2(1)	7	0

\* 法第 22 条申請(診察及び保護の申請) \* 法第 23 条通報(警察官の通報)

(イ) 取扱措置入院患者数 平成 26 年度

	計	男	女
第 29 条措置新規	3	1	2
第 29 条措置解除	1	0	1
第 29 条措置在院者数	2	1	1

##### イ 自立支援医療(精神通院医療)

目的 精神障がい者の通院治療について適正な医療を普及するため、医療費の公費負担をする。

自立支援医療費(精神通院)受給者証の有効期間 : 1 年間



(ア) 市別受給者証所持者数 平成 27 年 3 月 31 日現在

市町名	発行件数
伊賀市	1,319
名張市	1,231
計	2,532

(2) 精神障害者地域生活支援事業

ア 精神障害者保健福祉手帳交付

目的 精神障がい者の社会復帰の促進と自立、社会参加の促進を図る。

精神障害者保健福祉手帳の有効期間 : 2 年間

(ア) 市別等級別精神障害者保健福祉手帳所持者数 平成 27 年 3 月 31 日現在

		伊賀市	名張市	計
障害 等級	1	62	73	135
	2	363	388	751
	3	120	179	299
計		545	640	1,185

イ 精神保健相談及び保健師の相談

目的 一般住民や精神障がい者、その家族のニーズに応じ、こころの健康づくりやこころの病気を早期発見し、適切な医療につなげるとともに、精神障がい者の地域生活の支援、社会復帰を促す。

(ア) 相談件数

相談の区分	精神保健相談	保健師の相談		
		家庭訪問	面接	電話相談
開設状況	毎月第 4 水曜日 14:00~17:00	随時	随時	随時
相談延件数	23	40	24	333

ウ 知識の普及と啓発

目的 地域住民に対して、精神障がいの正しい知識を普及啓発するとともに、精神障がい者の地域における身近な支援者を育成する。

(ア) 精神保健福祉研修会・精神保健福祉ボランティアの継続研修

開催日:平成 26 年 10 月 18 日

場 所:伊賀庁舎

内 容:講演「タッピングタッチ～心豊かに健康な生活を送るために」

講 師:鈴鹿医療科学大学医療福祉学科臨床心理コース 中川 一郎 氏

\*こころの健康づくり研修会との合同開催

出席者:31 名

(イ) 地域交流会

a 対 象:管内精神障害者通所施設・家族会・ボランティア等

開催日:平成 26 年 9 月 25 日(木)

場 所:伊賀市青山北部公園体育館

内 容:伊賀圏域精神障がい者地域交流会(室内ゲーム大会) 参加者:46 名

b 対 象:関係機関等

開催日:平成 26 年 7 月 24 日(木)(参加機関:6 機関)

場 所:伊賀庁舎

内 容:地域交流会打ち合わせ会議

エ 精神障がい者支援体制の整備

(ア) 伊賀地域精神保健福祉連絡協議会

目的 精神障がい者の地域における生活の支援及び社会参加の促進を図るため、関係機関の連携を強化し、地域ケアの充実について検討する。

開催日	内 容	場 所	参加者
平成 27 年 2 月 6 日	講演会 「自分でもできるストレスケア～TFT(思考場療法)を使って～」 講師 一般財団法人信貴山病院分院 上野病院 臨床心理士 宇田 知功 氏	伊賀庁舎	関係機関 職員 31 名

(イ) 伊賀圏域障がい福祉連絡協議会(精神障がい者地域移行支援事業部会)

目的 伊賀市、名張市それぞれの地域移行支援事業・自立支援協議会(精神部会)の情報交換、共通課題の検討をする。

参加者 伊賀市障がい福祉課、名張市高齢・障害支援室、地域移行支援事業委託事業所、上野病院、保健所

開催日	内 容	場 所	参加者
平成 26 年 4 月 21 日	昨年度の活動の振り返りと本年度の方向性について 各市からの報告と部会の連携について	伊賀庁舎	11 名
平成 26 年 6 月 16 日	各市からのケース報告 ピアサポーターの活用について 三重県精神障がい者アウトリーチ推進事業について 第4期障害福祉計画について 今年度の取り組みについて計画	伊賀庁舎	14 名
平成 26 年 8 月 18 日	各市からのケース報告 各市自立支援協議会の進捗状況報告 ピアサポーターの活用について	伊賀庁舎	14 名

平成 26 年 10 月 20 日	各市からのケース報告 ピアサポーターの活用について 各市自立支援協議会の進捗状況報告	伊賀庁舎	9 名
平成 27 年 1 月 26 日	各市からのケース報告 各市自立支援協議会の進捗状況報告 来年度の部会について	伊賀庁舎	10 名
平成 27 年 2 月 19 日	来年度の部会のありかた検討	伊賀庁舎	14 名
平成 27 年 3 月 16 日	各市からのケース報告 今年度の活動の振り返り 来年度の部会について	伊賀庁舎	12 名

\* 部会の取り組み内容

地域施設見学会(伊賀市内 1 回、名張市内 1 回)

研修会

日 時:平成 26 年 8 月 20 日(水)16:00~17:00

場 所:上野病院 デイケア棟 2階

対象者:上野病院職員等39名

内 容:「ピアサポーターの役割と活動について」

(ウ) 関係機関の支援

目的 市及び関係職員の精神障がいに対する知識と理解を深め、地域における精神保健福祉サービスの充実を図る。

a 市障がい(害)者相談支援センター・地域包括支援センター等のケース検討会等への参加  
22ケース

b 精神障がい者に関わる連絡会・協議会出席

伊賀市	伊賀市障がい者地域自立支援協議会	
	精神保健部会	12 回
	事業所交流会(クリスマス会)12/9	1 回
	地域フォーラム(当事者発表)3/7	1 回
	伊賀市立上野総合市民病院での啓発	1回
名張市	共生地域デザイン会議精神保健福祉部会	2回
	共生地域デザイン会議精神保健福祉部会ワーキング	4回
	精神保健福祉関係職員連絡会	11回

(3) 精神障害者社会復帰推進事業

ア 通院患者リハビリテーション事業

目的 通院治療中の精神障がい者を一定期間事業所に通わせ、集中力、対人能力、仕事に対する持久力、環境適応能力等の涵養を図るための社会適応訓練を行い、再発防止と社会的自立を促進し、社会復帰を図る。

※ 平成24年度で事業が廃止され、23年度の新規利用者2名の利用期間の終期をもって平成26年度で事業終了となった。

(4) 生活訓練等事業

ア 第40回三家連精神保健福祉大会への参加 1回

## 143 支え合いの福祉社会づくり

### 14301 地域福祉活動と権利擁護の推進

(主担当:保健衛生室 総務企画課)

#### 主な取組内容

- 1 住民の身近なところでの相談・支援体制を整備するため、民生委員の適正な配置と活動を支援します。

#### 1 民生委員・児童委員

##### (1) 民生委員・児童委員の定数

平成 27 年 3 月 31 日現在

市名	委員定数[うち主任児童委員]
伊賀市	300[28]
名張市	182[16]
計	482[44]

### 14304 ユニバーサルデザインのネットワークづくりの推進

(主担当:保健衛生室 総務企画課)

#### 主な取組内容

- 1 平成 24 年 10 月から開始された「三重おもいやり駐車場利用証制度」に基づき、障がい者等からの申請により利用証を交付します。

「三重おもいやり駐車場利用証制度」とは、障がい者や妊産婦、けが人などで、歩行が困難な方の外出を支援するため、公共施設や商業施設などさまざまな施設に「おもいやり駐車場」を設置するとともに、必要な方に「おもいやり駐車場」の利用証を交付する制度です。

#### 1 おもいやり駐車場利用証制度

##### (1) 利用証交付数

平成 27 年 3 月 31 日現在

	交付数	区分別交付数							
		身体障がい	知的障がい	精神障がい	要介護高齢者等	難病患者	妊産婦	けが人	その他
管内	2, 219	1,544	55	5	223	38	229	10	115

## 23202 母子保健対策の推進

(主担当:保健衛生室 地域保健課)

### 主な取組内容

- 1 三重県の「健やか親子いきいきプランみえ」が平成 26 年度に最終年度を迎えることから、少子化の進行等母子保健を取り巻く社会環境の変化に対応し、現行の残された課題を踏まえて、安心して子どもを産み育てられるよう、親と子の総合的な健康づくりに取り組みます。
- 2 新生児を対象とした種々のマス・スクリーニング検査の実施、乳幼児、未熟児、思春期を対象とした専門的なサービスの提供を行います。
- 3 ハイリスク児、長期療養児等の市町支援、研修等、虐待予防に視点をおいた機能強化に努めます。

### 1 母子保健事業

母性及び乳幼児の健康の保持増進を図るため、市の母子保健事業の支援、広域的な母子保健施策の推進に努める。

#### (1) 保健指導事業

未熟児、小児慢性特定疾患及び長期療養児等とその家族に対して、関係機関との連携を図りながら QOL(生活の質)の向上を目指して個別支援を実施した。

家庭訪問延件数	11 件
相談延件数(面接・電話)	44 件

心身ともに発達や変化の大きい思春期の児童・生徒等に対して、性や健康に関する情報の提供及び保健指導を実施した。

電話相談延件数	4 件
---------	-----

#### (2) 健やか親子支援事業

親と子が健やかに暮らせる地域社会づくりを目指し、「健やか親子いきいきプランみえ」を推進していく中で、妊娠・出産・乳幼児期・思春期を通じて総合的に支援していくことを目的とした。

##### ア 心身の発達に問題をかかえる子どものフォローアップ

小児慢性特定疾患児の新規・更新申請時に、医師からの訪問の指示があるケースを中心に家庭訪問を実施し、状況に応じて市保健師と同行訪問した。継続的なフォローをする中で、市の母子保健事業につなげる支援を行う。

##### イ 児童虐待予防ケア

	年月日	場 所	内 容	参加者
名張市要保護児童対策地域協議会会議	H26.5.7 H26.6.18 H26.8.28 H26.9.3 H26.12.4 H27.2.18	名張市役所	要保護児童に対し、適切に支援できるように情報交換、協議を行った。	市担当者 市教育委員会 児童相談所 警察署 保健所
	H26.11.7	名張市子どもセンター	児童虐待予防研修会	

## ウ 思春期保健

性教育 目的:学童期や思春期に性教育を実施することで心身の健康を保持できるようにすること。

講師:児童相談センター及び保健所の保健師

開催回数等:4回(3回は個別指導・1回は性教育) 延 61人参加

対象:個別の学童、伊賀つばさ学園生徒

考察:単に避妊や性感染症予防の知識の普及にとどまらず、自己肯定感を高めるプログラムで実施した。職員も手ごたえがあったと評価した。

## エ 母子保健体制の整備

	年月日	場 所	内 容	参加者
連絡調整会議	H26.7.28	伊賀庁舎	市町母子保健担当者意見交換会	市保健師 市養育・育成医療担当職員 こども家庭室職員 保健所保健師
乳幼児健診委員会の場での情報交換	H26.4.24	伊賀医師会館	乳児健診の結果確認及び情報交換	小児科医師 産婦人科医師 市保健師 保健所保健師
	H26.9.4			
	H27.2.19			
	H26.4.4	名賀医師会館		
	H26.6.13			
	H26.8.8			
	H26.10.10			
H26.12.5				
H27.2.6				

### (3) 小児慢性特定疾病の状況

小児慢性特定疾病医療費助成に基づき、患者家庭の医療費負担の軽減を図った。

平成 27 年 3 月 31 日現在

	計	悪性 新生 物	慢性 腎疾 患	慢性 呼吸 器疾 患	慢性 心疾 患	内分 泌疾 患	膠 原 病	糖 尿 病	先 天 性 代 謝 異 常	血 友 病 等 血 液 疾 患	神 經 ・ 筋 疾 患	慢 性 消 化 器 疾 患
件数	148	23	12	6	34	42	4	5	3	4	7	8

## 2 母体保護事業

### (1) 人工妊娠中絶届出数(年齢別・在胎週別)

平成 26 年度

年齢 在胎週	総数	20 歳 未満	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50 歳 以上	不詳
総数	216	14	25	45	55	57	19	1	0	0
満 7 週以前	131	7	10	26	34	40	14	0	0	0
8 週～11 週	81	7	14	19	19	16	5	1	0	0
12 週～15 週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16 週～19 週	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0
20 週～21 週	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0
不詳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

### (2) 不妊手術届出数

届出件数 0 件



～沿革～

年	月	日	概 要
S12	4	5	保健所法(法律 42 号)公布
S12	12	14	内務大臣より阿山、名賀両郡を管轄区域とする三重県伊賀上野保健所設置の件、認可される。
S13	8	25	阿山郡上野町大字上野字丸の内に庁舎建物(木造 2 階建 延 115 坪)竣工。敷地 321 坪(寄附 150 坪、無償貸与 171 坪) 同日付開所する旨告示(三重県告示第 668 号)。
S22	5		上野警察署から衛生関係業務(食品衛生、急性伝染病予防業務)移管(三重県告示第 222 号)。
S22	6		三重県上野保健所と改称(三重県告示第 248 号)
S22	9	5	保健所法全面改正(法律第 101 号、昭 23.1.1 施行)
S23	11	20	保健所の課制施行。総務、衛生、保健予防課、保健婦室の 3 課 1 室設置(庁訓第 550 号)。
S29	2	12	庁舎事務所(木造 2 階建 延 51 坪)竣工。
S35	8	15	次長制度施行(県規則第 65 号)。
S39	3	6	三重県上野庁舎に移転。
S39	5	6	名張市に上野保健所名張相談所開設。
S51	4	1	環境課設置。4 課 1 室となり衛生課を衛生指導課と改称。
H4	4	6	上野市四十九町に移転。
H5	4	1	保健婦室を保健指導課と改称。
H9	4	1	保健予防課・保健指導課を廃止し、企画調整課・地域保健課を設置。
H10	4	1	・行政システム改革に伴う組織改正。 ・保健所、福祉事務所、児童相談所を統合し、伊賀県民局保健福祉部を設置。 これに伴いグループ制の実施。企画総務グループ、健康増進グループ、福祉保健グループ、児童グループ、衛生・検査グループを置く。
H13	4	1	・企画総務グループを、総務グループ、企画グループに分割。 ・衛生・検査グループを衛生指導グループに改称。
H14	4	1	・行政システム改革に伴う組織改正。 ・チーム制の導入、保健衛生チーム、福祉相談チーム、児童家庭チームの設置。 これに伴い保健衛生チームに計画調整グループ、健康増進グループ、衛生指導グループ、福祉相談チームに経営支援グループ、生活支援グループを置く。
H15	4	1	経営支援グループと計画調整グループを統合し、福祉相談チームに経営企画グループを置く。
H16	4	1	室制を導入。保健衛生チーム、福祉相談チーム、児童家庭チームをそれぞれ、保健衛生室、福祉相談室、児童家庭室に改称。
H17	4	1	・児童相談所の分離・独立に伴い、児童家庭室を廃止。 ・福祉相談室を企画福祉室、経営企画グループを企画市町村支援グループ、生活支援グループを福祉グループに改称。
H18	4	1	・機構改革による県民局制廃止に伴い、伊賀保健福祉事務所を設置。 ・上野保健所を伊賀保健所に改称。 ・市町村合併に伴い、伊賀福祉事務所を廃止。 ・企画福祉室を廃止し、課制導入。保健衛生室、企画福祉課、健康増進課、衛生指導課の 1 室 4 課体制となる。
H25	4	1	・機構改革により伊賀保健福祉事務所を廃止し、伊賀保健所を設置。 ・企画福祉課を総務企画課に改称。



# 保健所年報

平成27年9月発行

## 三重県伊賀保健所

〒518-8533 伊賀市四十九町2802番地  
電話番号 0595-24-8070(代表)  
ファックス番号 0595-24-8085